

アクセス
年次報告書
2014-2015

一人ではどうにもできない貧困、
だから一緒にかえていく。

We walk together toward the world without poverty.

アクセスとは

アクセスは、フィリピンと日本で

貧困問題の解決に向けて活動する国際協力 NGO です。

フィリピンの貧しい人々も、日本で暮らす人々も、ともに地球市民として

「貧困をはじめとする社会的な課題を、一人ひとりが主体となって解決し、

より良い社会を創っていく」ことをめざしています。

Aspiring Citizens for Community Empowerment with Sunny Smile

Contents

目次

| 5分で知るアクセスとフィリピン

アクセスのミッション／フィリピン事業概要	3
アクセスの組織図	4
統計から見るフィリピンの現状	5
2014 年度 活動ハイライト	6
2015 年度、ご参加、ご協力いただきたい活動	9

| 2014 年度事業報告

アクセス総評	10
フィリピン事業報告	12
コミュニティ・エンパワメントの現状と課題	15
日本事業報告	16

| 2014 年度決算報告

21

| 2015 年度事業計画

24

| 私たちのめざすもの

「誰も犠牲にしない豊かな社会」をめざして	26
私たちの活動の柱(要約版)	27
エンパワメントと組織化	28

役員・スタッフ・ボランティアスタッフ	30
会員・寄付者／ご支援いただいた助成団体	32
ご協力いただいた企業・学校・団体等／受賞歴／	
加盟団体・ネットワーク	33
アクセスのあゆみ 1988-2014	34

年次報告書をお読みいただく皆さまへ

アクセスの活動にご参加・ご協力をいただいている皆さまに、これまでの活動の成果をご報告すると同時に、これからの活動の展望や計画を具体的にお伝えすることを目的に、本報告書を作成いたしました。お読みいただく全ての皆さまに、アクセスの活動の成果や課題をご理解いただければと願っています。

「私たちのめざすもの」(P26～29)では、アクセスが何をめざして活動をすすめていこうとしているのかということを明らかにしようとしてみました。活動の背景にある私たちの想いや考えについてご意見・ご感想をお聞かせいただけると幸いです。

アクセスのミッション

アクセスの

3つのミッション(使命)

どれか1つかけても

貧困をなくすことはできない、

と考えています

貧困の痛みを
和らげる

教育・生計支援
人権擁護

貧困の原因を
明らかにしながら
貧困をなくそう
とする人を
増やす

協力できる
場を提供する

* アクセスのミッションの詳細は、P26～29 をご覧ください。

フィリピン事業概要



■ピナツボ

1991年に起こったピナツボ火山噴火の被災地区。特に土石流堆積の被害が大きかったバンパンガ州ボーラック町ミトラで、教育と農業を中心としたコミュニティ復興事業を進めています。



■ペレーズ

小さな島の一角にある、貧しい農漁村地区ペレーズ。農業と漁業で生計を立てる人々が大半を占めています。ここでは1999年より、教育支援、フェアトレード、青年育成、マイクロファイナンスなどの活動を行っています。



■パヤタス

マニラ首都圏から出るゴミの集積所の1つであるパヤタスで、1994年に幼稚園を建設。2013年より、その運営支援を行っています。



■アペロクルス

マニラ首都圏内にある川沿いのスラムの1つであるアペロクルスでは、1997年より、教育支援を行っています。



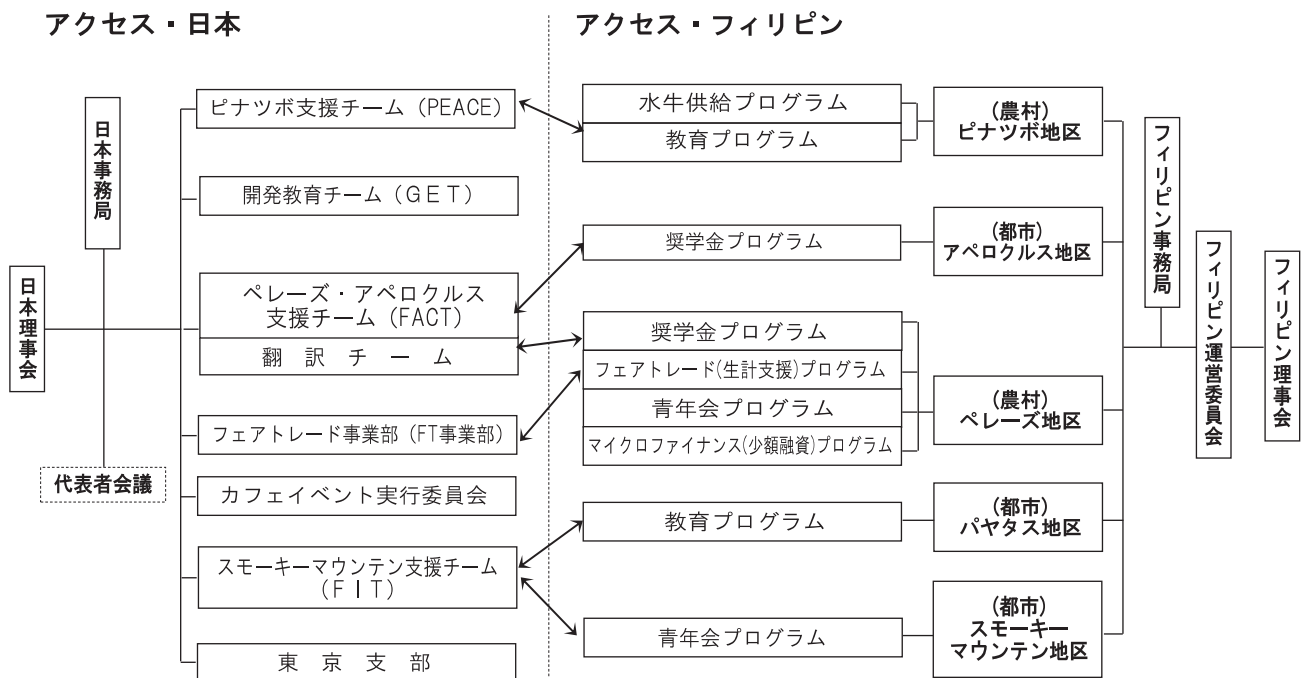
■トンド

マニラでも名の知れた貧困地区トンド。首都圏から出るゴミの集積場であるスモークマウンテンは、このトンド地区内にあります。ここでの活動は2005年から始まり、現在は地区内の若者を対象とした、青年育成事業を行っています。



アクセスの組織図

2015 年 7 月時点



* アクセス・日本とアクセス・フィリピンは、それぞれの国に理事会をもち、それぞれ法人格を持っていますが、実質的には2つで1つの国際協力N G Oです。2009 年度からは国際理事会を設置し、単一のN G Oとして意思決定を行っています。

* 2015 年 3 月末をもって、ロラ支援チームは活動休止、広報委員会は解散となりました。

ボランティアが活躍するアクセス



アクセスで定期的に活動するボランティアは、約 80 人！

そのほとんどが、「チーム」に所属しています。

チームメンバーは、アクセスの活動目的に沿って、

自分たちの活動を一から話し合い、計画し、実行します。

事務局は必要な時だけ、チームの活動をサポートします。

メンバーの主体性を重んじるからこそ生まれる

活気が、アクセスの魅力の1つかもしれません。

* 各チームの活動報告は、P16～20 に掲載しています。所属スタッフの一覧は P31 をご覧ください。

* ボランティア情報メールへの登録者は 390 人です。

【わたしたちがロゴに込めた想い】

「みんなで考え、話し合うことを通じて、活動を創っていく。」ふきだしは、そんなアクセスのスタイルを表現しています。

「活動を通じて支えあう関係をつくりだし、その中で笑顔をつくりだしていきたい。」

そんな願いを込めて、ふきだしがにっこり笑っているようなデザインになりました。

designed by musubi design



アクセス

統計から見る、 フィリピンの現状

10人に3人が

小学校を卒業できない、フィリピン。

その現状を、統計データを見ながら紹介します。

4人に1人が貧困層

経済成長率の高さが注目されるフィリピンですが、一人当たりGDP(国内総生産^{※1})は日本の約5分の1。日本をはじめとする「北」の国との格差は、縮まっていません。

フィリピン政府は、「5人家族が最低限必要とする生活費は月額8,778ペソ(日本円で約2万4千円/1日1人あたり158円)」

としており、この基準を下回る貧困層は、2014年度上半期で25.8%(前年同期 24.6%)(データ1)と発表しています。世界銀行によると、2012年で1日2ドル以下で暮らす人々は41.7%(データ2)にも上るとも言われています。国の経済が成長する一方で、その豊かさは底辺まで行き届いておらず、貧困層の割合・絶対数ともに増加しているのが現実です。

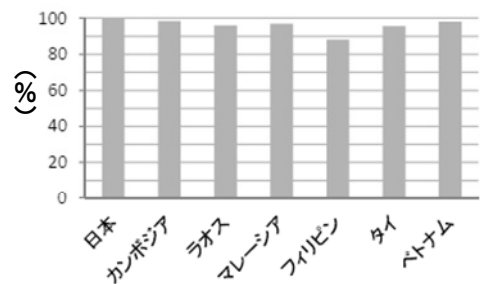
※1:国内で、1年間に生みだされた生産物やサービスの金額の総和のこと。

子どもの就学状況

フィリピンの初等教育における純就学率^{※2}は、近隣諸国よりやや低く、2012年の統計では88.2%。ASEAN加盟国で90%を下回った唯一の国です(データ3)。フィリピン教育省の統計によると、小学校に入学した児童のうち、卒業できるのは約73%にすぎません(データ4)。

※2:一定の教育レベルにおいて、教育を受けるべき年齢の人口総数に対し、実際に教育を受けている(その年齢グループに属する)人の割合。

初等教育純就学率の比較(2012年)



女性が活躍する国というイメージの一方で

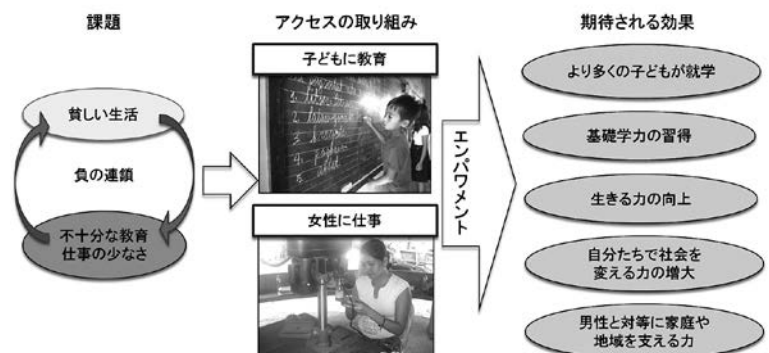
フィリピンの管理職における女性の比率は世界でも4番目に高いと言われ(データ5)、「女性が活躍する国」というイメージがあるかもしれません。しかし、2012年の雇用率^{※3}は、男性72.9%、女性46.7%と、女性の方が26.2ポイントも下回っています(データ6)。

その背景には、貧困層において今も根強く残る、性的役割分業

の意識があります。特に農漁村では、「男性は農業や漁業で収入を稼ぎ、女性は家事・育児をする」ことが一般的で、職業の選択肢が限られていることもあり、女性が仕事につくことは簡単ではありません。貧困層の女性ほど経済的に男性に依存せざるを得ず、子どもの暮らしを守るため、家庭でも地域でも、自分の意見や考えを押し殺して生きる女性が少なくありません。

※3:15歳以上の働くことができる人々のうち、雇用されている人の割合

アクセスはこうした現状に対し、
「子どもに教育」、「女性に仕事」
を提供することで、女性や子どもの
エンパワメントをすすめています。



【データ出典】

データ1: Philippines Inside News 2015/03/10 記事
データ2: Poverty headcount ratio at \$2 a day (PPP) (% of population) World Bank
データ3: 『ASEANにおける教育の充実と成長: 中等教育以上の人材育成がカギ』大和証券 経済調査部 井出和貴子
データ4: "Fact Sheet as of September, 2013" Department of Education, Philippines
データ5: "Women in Business and Management Gaining Momentum Global Report" ILO
データ6: "Gender Equality in the Labor Market in the Philippines." Asian Development Bank

*エンパワメントの具体的な内容については、P27-29をご覧ください。

2014 年度 活動ハイライト



左：奨学生の女の子たち
右上：保護者向けセミナーの様子
右下：子どもたちに配布された文房具セットと弁当箱



アクセスは 2014 年度、 356 人の子どもたちの 就学を支援しました

■ 奨学金プログラム 161 名

前年度比+34 名、P12 に関連記事

■ 小学校運営支援 118 名

前年度比+35 名

■ 幼稚園運営 77 名

前年度比+15 名、13 に関連記事

住民の手でつくる、「子どもにやさしいコミュニティ」

ペレーズ地区で実施している奨学金プログラムは、経済的な理由で学校に通い続けることが難しい子どもの小学校就学をサポートする事業で、2014 年度は 155 人をサポートすることができました。学校に納める費用、学用品、給食などを提供するほか、週末には補習授業や奨学生会を行っています。

2011 年からは、奨学生と保護者を主な対象に、「子どもに優しいコミュニティづくり」も進めています。フィリピンでは、子どもへの体罰はまだ当たり前のことと考えられています。奨学金プログラムを実施する村でも、2011 年までは、しつけの一環として叩いたり大声で怒鳴りつけたりする場面が多く見られました。村役員でさえ、子どもの権利を保護する法律があることを知らず、体罰や虐待を許容しているという状況だったのです。

そこで私たちは、子どもの権利セミナーを継続して実施し、子どもたち・保護者の意識を変えていくことから始めました。3 年経った今、子どもへの体罰は減多に見られなくなり、子どもに声を荒げる保護者も少なくなりました。

ビリヤマンサノ・スル村では、セミナーを受講した保護者たちの働きかけにより、「子どもの保護のための村評議会」が設立されました。2012 年に設立されたこの評議会の提案により、2013 年には村議会が「子どもに優しいコミュニティ」宣言を採択。2014 年は、子どもの保護のための具体的な取り組みが進展することが期待されていました。

その結果、2014 年は同村にて、村の保安官による夜間見回りが導入されたり、子どものタバコや酒の購入を規制する条例が施行されました。女性や子どもへの暴力や虐待を訴えるための手続きも整備されました。このように、人々の意識は確実に変化しており、「子どもに優しいコミュニティづくり」のための住民の努力は、少しずつ成果を出しています。

「子どもに優しいコミュニティづくり」の活動は、2015 年からピナツボ地区でも実施していきます。

(P12 に関連記事)

2015 年度は、432 名の就学を支援します！



困難の連続だった、女性や若者の仕事づくり

達成率 58.3% フェアトレード事業の苦闘

事業規模の拡大をめざして策定した「ペレーズ地区フェアトレード事業 3 カ年計画」。2014 年度はその 2 年目でした。2013 年度に開始したグリーティングカード事業の生産能力を強化し、ココナツ殻製品とあわせて、大きく売り上げを伸ばすことをめざしました。フィリピン側では、フェアトレード専従スタッフを置き、フィリピンや欧米での販路拡大や、協同組合化に向けた準備も並行して進める計画でした。

しかし、2014 年度はさまざまな問題が重なり、計画の変更を迫られる 1 年となりました。発端となったのは、カード生産に欠かせない手漉き紙の仕入れの問題です。ようやく質の高い手漉き紙メーカーに巡り合え、日本からもスタッフが訪問して、色や厚さについて細かく依頼をしたにも関わらず、実際に納品された紙はこちらの希望とは全く異なるものだったのです。トラブルにすぐに対処できなかったこともあり、当初予定していたクリスマスカードの生産が販売シーズンに間に合わなくなってしまいました。その結果、売り上げ目標の達成率 58.3%という、悔しい結果に終わりました。（P14、P16 に関連記事）

90 人の女性に融資 マイクロファイナンス

2010 年から取り組んでいるマイクロファイナンス（少額融資）については、養豚や雑貨店経営などの小規模事業を行うた

めの資金を、90 人に融資しました。

融資対象者は前年より 10 人増えたものの、返済率やミーティングへの出席率が下がるという問題に直面しました。担当スタッフの働きかけが不十分で、規則を守らなくてもよい雰囲気が出来てしまったことが1つの原因です。その後、担当者を変更しましたが、まだ改善には至っていません。2015 年度には事業評価と、立て直し計画の作成に取り組む計画です。

フェアトレード事業とマイクロファイナンス事業の運営・管理には、ビジネスセンスが求められます。フィリピンにおいて、そうした分野に強い人材の確保が大きな課題です。（P15 に関連記事）

ペレーズでの台風被害 8 世帯に支援

2014 年 7 月 16 日にフィリピンのルソン島周辺を襲った大型台風は、アクセス事業地であるペレーズでも被害をもたらしました。アクセスでは、被害が大きかった 8 世帯に対し、家屋修復のための建材（トタン板、ベニヤ板、釘など）を現物で支給しました。



壁面を修理したばかりの、ローレスさんのお宅

2014 年度 活動ハイライト

出会い

貧困問題に触れ、感じ、語り合う

スタディツアーに 68 人、カフェイベントに 103 人が参加



貧困の中でもがき苦しみ、努力し、生き抜いている人々と出会うフィリピン・スタディツアーと、そうした現実を日本で少しでもリアルに感じてもらうためのカフェイベントを、年間を通して開催しました。

ツアーやイベントは、貧困の現状を理解してもらう場であると同時に、「よりよい世界、社会を創りたい」と願う人々が出会う場でもあります。ツアーでは、物質的な豊かさや精神的な豊かさについてなど、たくさんの興味深いテーマで深く語り合いました。イベントでは、働きながら国際協力に取り組む社会人をゲストに迎えたトークライブなどを行い、貧困をなくすために何ができるのかを考えました。こ

うした取り組みの結果、ボランティアやサポーターとしてフィリピンを応援する「一歩」を踏み出す人を増やすことができました。

(上写真：京都市内にある、京の癒し町家 cafe「満月の花」で開催した、イベントの様子)

参加

880 人以上が活動に参加

古本・CD・書き損じハガキなどの寄付、会員・サポーターとして協力、ボランティアとして活動など、参加が広がりました

ココロ便(中古の本・CD・DVD・ゲームの寄付)	73 件
書き損じハガキ	35 件
会員・サポーター	695 人
ボランティアスタッフ	約 80 人

(P31 のスタッフリスト、P33 の協力団体リストもご参照ください。)

(右写真) 本・CD などを収集するボックスを設置し、たくさんのご寄付をしてくださった多目的カフェ「かぜのね」に、感謝状をお渡ししました。



協力・連携

企業、学校、労働組合、カフェなど
連携先が増えています！

2010 年から始まった近畿労働金庫との協働事業「心のそしな」プロジェクトに続き、ブックオフコーポレーション株式会社の協力による「ココロ便」が 2013 年度よりスタート。2014 年度には株式会社ドロキア・オラシイタ^(P11 に関連記事あり)や、株式会社テーブルクロスからも活動にご協力いただけるようになりました。このほか、生活協同組合や、3 つの労働組合・連合、6 軒の飲食店、2 軒の衣料品店、7 つの学校などに、アクセスの活動に協力していただきました。

(ご協力いただいたグループ・企業等の一覧を、P33 に掲載しています。)



外食するなら予約しよう
あなたの1食が こどもの給食になる

TABLE CROSS X ACCESS

株式会社テーブルクロスが提供する無料アプリを使うと、飲食店を予約するだけで、フィリピンの子どもたちに給食を提供できます。QR コードからダウンロードして、ぜひご利用ください！



2015年度、 ご参加、ご協力いただきたい活動

アクセスでは、フィリピンの5つの事業地でさまざまな支援事業を行い、日本でも多くのイベント・企画を行っています。
その中でも、2015年度特に力を入れて取り組んでいきたい活動、多くの方にご協力いただきたい活動を、
ポイントを絞ってご紹介します。ぜひ、ご協力ください。
また、これ以外にも、お力を貸していただける場合には、ぜひアクセス事務局までご連絡ください。

新作、続々！ フェアトレード商品

ネット通販、はじまります！



SoooooS.
いつもお買いもの、世界を変える

<http://soooooos.com/>

これまで、一部のフェアトレードショップや、イベント会場、アクセス事務所では購入できなかったアクセスのフェアトレード商品ですが、SoooooSというインターネット上のショッピングモールでの通販を9月から始めるべく、準備を進めています。人や地球にやさしい商品ばかりを集めた「SoooooS.」(スース)、ぜひ一度ご覧ください！



目標の200人まで、 あと14人！

10人に3人が、小学校を卒業できないと言われるフィリピン。
アクセスが活動するアラバット島ペレーズ(人口約12,000人)でも、数年前までは同じような状況がありました。

そこでアクセスは、2009年より奨学金プログラムを開始。日本のサポーターからの年間15,000円のご寄付で、1人の子どもの小学校就学を1年間支援し、同時に「子どもに優しいコミュニティづくり」(詳細P4)をすすめてきました。

現在、ペレーズ地区内に14ある村のうち、8村で186人の子どもたちに奨学金を提供できるようになり、経済的な理由による小学校中退を防げるようになってきました。

2015年度の目標は200人を支援すること。手紙を通じて交流し、物心ともに支えてくださるサポーターを、あと14名募集しています！写真や手紙で、子どもの成長を実感できるのも魅力です。まずは資料をご請求ください。

10年後のビジョンを描く ご参加ください！

2014年度に話し合いの場を設けることができなかった「10年後のビジョン」。2015年度中には必ず、会員・サポーターの皆さまとともに10年後のビジョンを話し合う場を設けたいと考えています。詳細は、ニュースレターやメールマガジン、Facebookなどでご案内いたします。

access
市民のネットワークが貧困のない社会を創る

【お問合せ・ご相談】

TEL/FAX 075-643-7232 Eメール acce@sannet.ne.jp

2014年度事業報告

アクセス総評

新たな課題「世代交代」に向けて

2007年以降に取り組んできた様々な新しい取り組みや改革によって、アクセスの事業や組織は大きく発展しました。日比ともに事業に参加する人の数は年々増え、活動の質も向上しています。そうした取り組みがメディアで取り上げられることも増え、支援して下さる方も増加しました。しかし、こうして事業や組織が発展するのにもない、新しい課題にも直面しています。

最大の課題が、30代・40代の新たな世代のリーダーを育成することです。アクセス・フィリピンでは、2007年からの改革をリードした60歳前後の世代に続く次のリーダーとなるべき30代・40代の中堅職員が量的にも質的にも不足し、また若手職員も定着しないという組織的課題がここ数年顕著になってきました。中堅職員を育ててリーダー的ポジションの世代交代を準備すること、とりわけ生計支援プログラムを管理運営する能力を持つスタッフの育成・獲得が急務となっています。アクセス・日本でも、職員の定着が大きな課題です。待遇の改善や、会議の持ち方の改善、スキルアップのための機会づくりなど、働きがいのある職場づくりが課題となっています。

財務問題と円安

もう一つの大きな課題が財務問題です。収入は、多くの方のご支援・ご協力のおかげで、2012年度の1727万円から2014年度は2120万円と約400万円増やすことができましたが、2012年末以来の円安でフィリピン事業費が増大しています。2015年度のフィリピン事業費482万ペソ(スタディツアーや会議費を除く)を2012年度のレートと比べると、円安のみで約340万円の経費増となっています。この円安に加え、フェアトレード事業やマイクロファイナンスの収入減などにより、2014年度は日比合わせて約223万円の赤字決算となりました。



火山被災以降初めての小学校卒業生 11名

フィリピンでの成果:教育支援プログラムの発展

パンパンガ州ピナツボ地区では、1991年のピナツボ火山噴火以降何年も小学校がなかったコミュニティで2007年から教育支援を開始し、以来幼稚園の開校、小学校校舎の建設、給食の提供など地域の教育復興を支援してきました。2010年以降は小学校の運営支援を行いながら保護者とともに行政に働きかけ、開講学年の拡大、教員の増員、校舎の増築などを実現。そしてついに2015年3月には、ピナツボ火山被災以降初めて11名が小学校を卒業することができました。

ケソン州アラバット島ペレーズ地区でも、2009年に13名で開始した奨学金プログラムが、2014年度は155名の子どもたちの小学校への就学を支援することができました。2015年度は200名の子どもたちの支援を目標にしています。さらに、2016年度からは中高生への支援を開始すべく準備を進めます。他方、2010年から、奨学生会・保護者会を対象にした子どもの権利と福祉に関する啓発事業を継続して行い、「子どもに優しいコミュニティ」づくりが進んでいます。

また、マニラ首都圏ケソン市パヤタス地区の幼稚園の運営も

■ビジョン(展望)

私たちの夢は、次のような社会を築くことです。

- ✓ 人々が互いに多様性を受け入れ協調して生きられる社会
- ✓ 人々が自然環境と調和して暮らす社会
- ✓ 土地とすべての生産資源に誰もが平等にアクセスすることのできる社会
- ✓ 人々が社会関係を創造・発展させる自由、自分たちが責任を持って統治する自由を享受する社会
- ✓ 人権・尊厳・創造性が尊重される社会
- ✓ 人々、特に子どもたちが健康に、家族や社会の中で生きづらさを感じることなく生きられる社会

■ミッション(使命)

私たちは、アジア、とりわけフィリピンの貧しい人々の困窮状態に突き動かされ、また人としての義務感に鼓舞されて、国際連帯の推進、すなわち貧困・人権侵害・戦争と平和の諸問題に国境を越えて共同で取り組むことを通じて、貧しい人々・収奪された人々・抑圧された人々の集団的エンパワメントに献身します。

■ゴール(目標)

私たちは都市と農村の窮乏したコミュニティにおいて、住民のニーズに応じたプログラムを複合的に実施する

アクセス・フィリピンの ビジョン・ミッション・ゴール

■戦略

私たちは、これらのビジョン・ミッション・ゴールの達成のために、貧困の中で生きる人々自身による草の根の住民組織を組織すると同時に、日本人とフィリピン人の中産層や専門家たち(学位保有者や大学卒である必要はない)に働きかけ、私たちが関わっている都市および農村の貧しいコミュニティのニーズに対応した複合的なプログラムに参加する

2 年目を終了し、50 名の小学校就学前の児童に基礎教育の場を提供することができました。

初等教育を受けることは、最も重要な基本的人権の一つです。貧しいがために初等教育へのアクセスが困難な多くの子どもたちに学びの場を提供できたことは大きな喜びです。

フィリピンでの課題：生計支援プログラムの課題

ペレーズ地区では、手作りグリーティングカードおよびココナツ殻製品の生産事業を実施しています。2014 年度はフィリピン側にフェアトレード事業専従担当者を置き、新商品の開発、フィリピン国内・欧米市場の開拓、それに協同組合化にむけた準備を進めようとしたのですが、事業管理が上手くいかず、担当者が 11 月で辞職してしまいました。

また、マイクロフィナンスプログラムも 2014 年度には 90 名の融資利用者にまで拡大しましたが、融資利用者の週一回の会議への出席率・返済率が下がり始め、プログラムが始まって以来の深刻な状態となりました。2015 年 6 月中をめどにプログラム評価を行い、今後プログラムを継続するか否かを判断することになっています。

生計支援事業はビジネス性が高く、担当スタッフにはそれに応じた知識とスキルが求められますが、現状のアクセス・フィリピンにはそうしたビジネス系プログラムに対応できるスタッフが少ないのが現状です。今後、この問題をどう解決するかが大きな課題となっています。

日本での成果：広がる協力の輪

アクセス日本では、一人でも多くの人々に活動に参加してもらい、「誰も犠牲にしない豊かな社会」を多くの方々とともに創って

いきたいと考え、活動に取り組みました。

フィリピンの子どもとのつながりを実感できる奨学金プログラムへの参加を繰り返し呼びかけると同時に、気軽に取り組める物資収集事業（書き損じハガキ・古本・CD 等）を継続したことで、支援者の裾野が広がりました。特に奨学金については、新聞紙面での掲載回数が増えたことや、既存会員の皆さまがご家族やご友人などにアクセスを紹介してくださるケースが増え、サポーター数が拡大しました。

また、2014 年度は「翻訳チーム」が結成され、「社会人や主婦、シニアの方々が活動しやすい場づくり」の一つの形となりました。また「カフェイベント実行委員会」にも社会人ボランティアの方に参加していただくようになり、もう一つの参加の場となりつつあります。これまでの学生中心の「支援チーム」と並ぶ、社会人の方々が集える場として発展させていきます。

さらに、パヤタス幼稚園への給食支援をしていただいた企業、古本・CD の収集を行う「ココロ便」にご協力いただいた企業や労組・団体、高校や大学・学習塾からのフィリピンでの研修の受け入れ依頼など、新たな企業や団体、学校とご縁を結ぶことができました。

日本での課題：フェアトレード事業の強化

その一方で、フェアトレードについては、「事業強化 3 ヵ年計画」の 2 年目の取組みを進めましたが、フィリピンでの事業管理が上手くいかなかったこともあり、日本での売り上げが計画を大幅に下回ってしまいました。日本側では、2015 年度、過去 2 年間実施してきた専従職員の配置をとりやめ、フェアトレード事業部のボランティアスタッフを主力にした活動スタイルに戻したうえで、販売目標の達成をめざします。



株式会社ドロキア・オラシイタ × アクセス

2014 年後半より、パヤタス地区の幼稚園の給食の内容を、軽食から、肉や野菜などを使ったしっかりとした食事にグレードアップさせることができました！これは、焼きたてチーズタルト専門店「PABLO」を販売する株式会社ドロキア・オラシイタからのご協力によるものです。

社長の寄本将光さんは、「PABLO を出店するために訪れたフィリピンで、チーズタルトを買える富裕層の裏に、食事のままならない貧困層が沢山いるのだと実感しました。」とおっしゃり、フィリピンの子どもたちへの支援を決めたそうです。2015 年は、子どもたちの教育支援にもご協力いただく予定です。

子どもの教育・青少年の育成



奨学金の提供
幼稚園運営
青年会

Education

奨学金プログラム

ペレーズ地区／アペロクルス地区



161 人の小学校就学を支援

【事業地】

ケソン州アラバット島ペレーズ町
マニラ首都圏バサイ市アペロクルス

15 人が小学校を卒業

2015 年 3 月、アクセスの奨学生 15 人が小学校を卒業しました。奨学金がなければ、小学校すら卒業が難しかったであろう子どもたちの姿を、親たちは笑顔で見守っていました。

フィリピンでは 9 割以上の子どもたちが小学校に入学しますが、入学した子どもの 10 人に 3 人は、経済的な理由などで退学してしまいます。中退した子どもたちは、十分に読み書き計算ができないだけでなく、なかなか自分に自信を持てないまま、苦勞の多い人生を歩むことになります。そうした子どもを一人でも減らしたいと願い、奨学金プログラムを続けています。

保護者の力を活かして

2015 年度も、制服や靴、カバン、文房具、学用品等を 6 月の新学期に間に合うように配布しました。授業が始まって以降は、保護者に調理をお願いし、給食を週に 3 回、提供。また、土曜日には 1～3 年生全員と 4～6 年生の希望者を対象とした補習授業を実施し、学習内容の定着をはかりました。

月 1 回のペースで開催した、保護者会・奨学生会、セミナーも、奨学金プログラムの重要な一部です。保護者を対象に、子どもの成長を促す接し方などの身近な話題から、子どもを虐待等から守るための法律に至るまで、子

どもの保護に関するあらゆるテーマでのセミナーを 5 回開催し、各回 84～122 人が参加しました。子どもたちに子どもの権利について学んでもらう場も設けました。

ペレーズ地区の中でも、最もアクセスの奨学生が多いビリヤマンサノ・スル村では、セミナーを受講した保護者と村議会が協働し、「子どもに優しいコミュニティづくり」の活動が進みました。このことにより、家族だけでなく地域全体で子どもたちを守り育てていこうとする動きが、目に見えるようになってきています。(P6 に関連記事)

伸び悩む、出席率

課題となっているのは、補習授業や保護者会などの出席率の低下です。下半期は 19 回の補習授業のうち、対象生徒の半分以上が欠席する日が 6 回もありました。

主な原因として、子どもが出席を嫌がった時の保護者の働きかけが不十分なことが指摘されています。奨学生が年間 50 人ずつのペースで増えていることもあり、スタッフの目が行き届きにくくなっていることも影響しているかもしれません。子どもたちが楽しみになるような授業をめざすと同時に、保護者との話し合いの場を設け、保護者とアクセスが協力し、子どもたちの成長のために努力していく必要があると感じています。

※アペロクルス地区での奨学金事業は、学用品等の配布による就学支援のみで、子どもの権利セミナーや給食は行っていない。

保護者の声



給食事業 PTA 副会長 リーア・モレスさん

母親として、学校で給食があるというのは、本当に助かるなあ、と実感しています。

私たち保護者は、毎日の給食の調理を行う中で、他の保護者との親睦が深まっています。美味しいだけでなく、栄養のある食事を提供するの、簡単なこと

ではありませんが、日々チャレンジしています。

日本の皆さんの、他者を助けようとする強い意志は、私たちにとって励みになっていますし、子どもたちが夢に向かって歩む上での希望になっています。

※「心のそしな」プロジェクト(P33 参照)により、給食事業を支えてくださっている近畿労働金庫宛の手紙より、抜粋

77 人の子どもたちを受け入れ

幼稚園義務化の流れの中で

フィリピンでは 2011 年度より、幼稚園で読み書きの基礎を 1 年間学ぶことが義務化されました。アクセスが運営する 2 つ幼稚園では、2014 年度は教員のための研修を行い、指導力の向上をめざしました。

2013 年から支援を再開したパヤタス幼稚園 去年は給食がパワーアップ

ゴミ捨て場周辺コミュニティであるパヤタス地区に、アクセスが 1994 年に建設した幼稚園。2013 年から支援を再開し、2014 年度も、歌や踊り、読み聞かせなども取り入れた、読み書き計算の基礎を学ぶ授業を週 5 日行い、50 名の幼児が入園しました。

年度末には、年長組の 95%の生徒が、アルファベットを読むことや、足し算と引き算、色や動物を識別することなどができるようになりました。年 1 回の遠足では、歴史的な名所であるリサル公園や、マニラ動物園、子ども博物館などを訪れ、子どもたちの好奇心を育みました。

2014 年度は日本企業の支援により、ご飯と栄養のあるおかずを給食として提供できるようになりました。給食の食材買い出しや後片付けなどは、すべて保護者が分担してボランティアで担いました。保護者を対象とした健康や栄養に関するセミナーも実施したことで、野菜を多くとり入れた給食が作られるようになってきています。給食は、栄養状態を改善するだけでなく、保護者が子どもたちのために協力する場ともなっています。



開設以来、最高の出席率に

1991 年にピナツボ火山噴火により被災したポーラック町に、2014 年度は幼稚園・社会教育センターを建設することができ、公立幼稚園(年長)に入る前の 3〜4 歳の子どもたち 27 人を受け入れました。

2014 年度は、子どもの発達段階に合わせ、図画工作や読み聞かせ、遊びを中心としたカリキュラムへの変更を行いました。こうした工夫のおかげで、2013 年度は中退者 6 名／出席率 78.6%だったものが、2014 年度は中退者ゼロ／出席率 86.3%という、設立以来の良い結果を出すことができました。保護者からは、「早くから読み書き計算を学ばせたい」という要望が寄せられましたが、保護者会などで何度も説明し、理解を求めました。

2014 年度は子どもの人数増加による、給食予算の不足が大きな課題でしたが、保護者が何度も話し合いを重ね、収入が減る雨季に限定して給食を実施しました。2015 年度からは、保護者向けのセミナーにより力を入れ、子どもに優しいコミュニティづくりの活動を住民とともに進める計画です。

青少年の育成

フィリピンでは、青少年の非行(喫煙、飲酒、薬物使用など)は深刻な問題となっています。アクセスでは、13〜20 歳の青少年が参加できる青年会を 2 地区で組織し、下記のような活動を行うことで、地域のために協力して行動できる若者の育成に取り組んでいます。

- ✓ 社会問題についての学習会
- ✓ 都市地区での暮らしや、環境問題を表現する演劇、ダンス、歌の創作・練習
- ✓ 文化発表会への参加、開催
- ✓ 貧困について学び考える、サマーキャンプ(ペレーズ地区)
- ✓ マニラを訪問するスタディツアー(ペレーズ地区)
- ✓ 地域貢献活動(植樹、清掃、奨学生のための補習授業での指導役など)

2014 年度、首都マニラの中でも最大の貧困地区といわれるトンド地区で組織している青年会では、46 人がメンバー登録し、うち 12 名が中心となって活動を行いました。農漁村ペレーズ地区では、20 人が活動に参加しました。

ペレーズ地区／トンド地区



マングローブの植樹をする青年会メンバー

女性と若者の仕事づくり

フェアトレード事業

ペレーズ地区



マ パ ヤ パ
Mapayapa 5 名
ココナツ殻雑貨生産グループ

パ ン ガ ラ
Pangarap 5 名
グリーティングカード生産グループ

年間売上合計 **77 万円**

「子どもにお腹いっぱい食べさせてあげたい」「先生になるために進学したい」そんな夢を持つお母さんたちや若者を応援しようと、2014 年度もフェアトレード商品の生産と販売に取り組みました。1 人でも多くの人に働くチャンスを提供し、努力すれば夢がかなえられる地域づくりに貢献することをめざしています。

2000 年から生産を続けている Mapayapa(マパヤパ)は、日本からの注文を期日より早く仕上げることができ、プレスレット 2 種の新商品開発もスムーズに進みました。年度後半はメンバー 1 名が事情により活動できなくなったため、2015 年度には新メンバーを募集します。

2013 年度に活動を開始した Pangarap(パンガラ)は、原材料の手漉き紙の納品が遅れたことにより、売上げが

大きく目標を下回りました。指定された色・形・材料で納期までに生産する、という基本的な作業を滞りなく行える体制づくりが課題です。年度後半には、日本の担当者がペレーズを訪れ、品質確保のための型紙を導入し、一歩前進しました。

これからの課題は 2 つ、販路の拡大と、生産者団体の協同組合化です。日本・フィリピンでの販路を拡大すると同時に、欧米の取引先を見つけることが 2015 年度の目標です。また、何年か後、生産者グループが協同組合となり、アクセスの関与がなくとも自立的に事業運営ができるようになることも重要な目標です。その目標に向け、生産者グループの能力強化に地道に取り組んでいきます。

(関連記事 P16)

マイクロファイナンス事業

ペレーズ地区

商売を通じて生活を改善したいと希望する女性に少額を融資するマイクロファイナンス事業では、5 村で 90 人に融資しました。融資を受けた女性たちは、雑貨店を経営したり、行商や炭焼き、養豚などを行って収入を稼ぎ、毎週少しずつ返済します。

2010 年に開始して以来、返済率 100%が続いていた本事業ですが、2014 年度に入ってから返済率が低下しています。2015 年度は返済計画を立て直して返済を促すと同時に、事業枠組みの見直しを含めた再建計画づくりに取り組みます。

(関連記事 P7 / 詳細記事 P15)

水牛の供給

ピナツボ地区

3 世帯に水牛を貸し付け

水牛は、田畑を耕したり収穫物などを運ぶ時などに活躍する、フィリピンの農業には欠かせない動物です。2014 年度は 3 世帯に水牛を無償で貸し出しました。借りた家庭は、農作業にその水牛を役立てながら水牛に子どもを産ませ、子水牛がある程度成長したところで、親水牛を別の世帯に貸し出すという仕組みです。

以前は小学校中退生徒がいる貧困家庭を対象に、復学を条件に水牛を貸し出していましたが、貧しい家庭ほど水牛の世話と復学を両立することがかなり難しいことがわかってきたこともあり、2014 年度は貸出基準を緩和しました。以降は、水牛を活用して収入向上に結び付けることのできる貧しい家庭に貸し出しています。



フェアトレード

マイクロファイナンス

水牛提供

Livelihood



コミュニティエンパワメントの現状と課題

～2014年度を振り返って実感すること～

アクセス日本 事務局長 野田沙良

地域のために行動する人を増やす活動、一歩ずつ

ここ数年、子どもの教育に関する事業は、ずいぶん前進したな、と感じています。十数人で始めたペレーズ地区の奨学金も、今年は150人を超えるまでに。これは、会員やサポーター、協力者の皆さんのおかげです。

ペレーズ奨学金では、小学校に通えるようにするだけではなく、子どもの人権に関するセミナーを何度も開催したことで、地域の人たちが「子どもを守り育てる」ためのさまざまなアクションを起こすようになりました。（関連記事P4）

これって、本当にすごいことだな、と思います。何がすごいって、子どもたちのために行動する、ペレーズの大人たちがすごい。子どもの保護に関する法律を学び、その法律に沿って「子どもの保護のための住民評議会」を設立し、村レベルで子どもを守る条例を策定させてきた。日本で自分がそういうことができるか？と言われたら、とてもできそうにありません。

私は京都で暮らして合計十二年になります。地域のために行動した記

憶がない。地域で苦労している人の存在を気にかけることもなく、暮らしてきてしまいました。そんな自分と、ペレーズで「子どもに優しいコミュニティ作り」に取り組む大人たちを比べると、本当にすごいなあ、と思います。そして、地域社会に無関心できた自分を反省します。

2014年度は他地区で実施した青年会の組織化、子どもたちへの給食、それに幼稚園運営も、ほぼ計画通りに進めることができ、ほっとしています。物質的に支援するだけに終わらせず、地域のために行動する人を増やしていくという意味で、一步一步前に進んでいるな、と感じています。

難しい局面にある生計支援

教育系の事業がうまくいっているのに対して、生計支援系の事業、フェアトレードとマイクロファイナンス（少額融資）は、今とても難しい状況にあります。いずれも、仕事を創り出す活動なので、ビジネス的に成功させる必要があります。つまり効率性、収益性を大切にしなければなりません。でも、プログラムに参加する人たちの多くは

教育を十分に受けておらず、出納帳をつけることも簡単ではありません。そうしたハンデがあっても利益を出すことができ、生活を向上させられるような事業にしていくな必要があります。そのためには、基本的な経営スキルを身につけてもらうこと、地域で助け合い協力する仕組みを作り出す必要があります。そう考えると、私たちがやろうとしていることは、本当に難しいことです。

マイクロファイナンス事業は、雑貨店の運営や養豚といった小規模ビジネスをしたい女性に対して少額を融資する活動です。「貧しい人たちのための銀行業」ですね。借りた資金で商売を始め、日々の売り上げの中から毎週少しずつ返済をしてもらいます。貧しい女性には担保となる資産はありませんので、知人や親類などと5人組を作ってもらい、その人間関係が担保となります。2010年に始まったこの事業、最初の数年は返済率ほぼ100%でとても上手くいってました。でも2014年の前半から少しずつ返済率が下がりはじめたのです。

色々な原因がありますが、大きな

要因はやはり借り手の事業がうまくいかず、利息を付けて返済するだけの利益を上げていないことです。例えば養豚をやっている人たちが協同で市を開いて、自分たちで豚肉を解体し、村人に直接買ってもらうようにすれば、仲買人の中間手数料を自分たちの利益にすることができます。このように事業を協同で行っていく仕組みと環境を作っていくことが必要なのだろうと思います。

フェアトレード事業でも、生産者自らが生産・販売・管理を行い、生産者協同組合として事業を運営することが目標ですが、これも簡単なことではありません。

アクセス・フィリピンでは、生計支援事業に強い人材が不足しています。これを克服しないと、生計支援事業を通じて女性のエンパワメントや、コミュニティ・エンパワメントは進みません。2015年度は日本のスタッフがフィリピンを訪問し、事業管理や人材育成のサポートをする計画です。日本とフィリピンのスタッフで協力して、なんとかこの難しい局面を乗り越えていこうと思っています。

フェアトレード事業部

FT 事業部/Fair Trade Division

新メンバーとともにチャレンジした一年

フェアトレード事業部では、2014 年度は 4 名の新メンバーを迎え、新たなチャレンジに取り組めました。

京都造形大学や京都精華大学の学生の方々にご協力いただき、クリスマスカードの新デザインを考案するというコラボレーションに挑戦。事業部単独でも、カード・ネックレス・ブレスレットなど 6 点の新商品を開発しました。

また、計 10 イベントに参加し、様々な場面で販売・営業活動を行いました。その結果、売上は 754,636 円となり、前年度(713,877 円)を少し上回ることができました。

コラボレーションで生み出す、 デザイン性 × マーケティング

京都造形大学とのワークショップでは、デザイン開発を学んでいる学生の皆さんに、グリーティングカードのデザインと一緒に考案してもらいました。短い時間の中、次々と出てくる豊かで斬新な発想力とデザイン性に驚きの連続でした。また、ワークショップを通して、商品のデザイン作成には市場の傾向を調査するなどのマーケティング力が必要だということを学びました。今後の商品開発は、マーケティングの観点を取り入れて展開して行きたいと考えています。

売上アップに向けた努力と工夫

2014 年度もあべのハルカスでイベントを開催し、フェアトレード商品を国際協力に特に関心のない層の方々にもアピールしようと試みました。イベントには子ども連れの家族が多く、子どもたちにはコナツ殻を磨く体験を楽しんでいただきました。



学園祭での商品販売では、ディスプレイを工夫

た。同時に、ご家族の方には、フィリピンの現状やフェアトレードについて知ってもらうことができました。

また、龍谷大学や京都大学などでの学園祭にフリーマーケットとして出店した際は、お客様の視点になって、見やすく、興味を持ってもらいやすいディスプレイとなるよう工夫しました。以前より、商品をより魅力的に見せることができたのではないかと考えています。

2015 年度は、国際系イベントやフェアトレードショップ以外の、「フェアトレードを知らない・関心がない」人が多い一般店舗にも販路を広げ、売り上げを大きく伸ばす 1 年にしたいと考えています。スタッフ全員で協力して店舗を訪問し、商品の魅力を伝えながら、取引先を増やしていきたいと思います。また、そうした店舗訪問を通じてお客様の声を丁寧に拾いあげ、「商品が魅力的だから買いたい」と思ってもらえるような商品を増やしていければと考えています。

(2014 年度の
新商品の一例)



フェアトレードにできること

1. ダイレクトに現金収入につながる

貧困に苦しむ人は働きたくても仕事がない、がんばって働いても低収入... ということが大きな悩み。フェアトレードで仕事の機会を増やしたり、公正な価格を支払うことで、その悩みを緩和できます。

2. 生産者の自立につながる

フェアトレードでは単純に商品を売買って買い支えるだけでなく、生産技術向上や組織の運営能力向上のための支援も行います。能力向上によって、将来的には NGO などに頼らずとも継続的に生産・取引できるようになります。

3. 生産者の自信・自尊心につながる

フェアトレードはお金や物を無償で与える支援ではありません。生産者は自分で働いて稼ぐ喜びや自信を得ることができます。またフェアトレードは

ビジネスとして成立することを目指しているので、「支援される側」と「支援する側」ではなく、ビジネスパートナーとして対等な関係を築くことができます。

4. 貧しい地域の人々に夢を与える

いきいき働く生産者の姿を見て、まわりの大人や子どもたちが「自分も頑張れば何かできるかも」、「貧困から抜け出せるかも」と夢を持つきっかけになる可能性があります。

5. 貧困問題に関心を持ってもらうきっかけになる

普段、国際協力や貧困問題に関して関心が低い人にも、「かわいい!」「おいしい!」という視点からフェアトレード商品を手に取ってもらえる可能性があります。フェアトレード商品を広めることで、普段何気なく購入している商品の背景に貧しい人々がいるかもしれないと気づいてもらうことができます。

【フェアトレード事業部とは】 ① 貧困地区における雇用の創出と現金収入の確保、② 生産者団体へのエンパワメント、③ 貧困問題を日本の市民に伝え、解決手段としてフェアトレードを推進する、という 3 点を目的として活動を行っています。具体的には、ペレス地区でフェアトレード生産者団体の組織化、商品開発支援、商品仕入れと管理、フリーマーケット等での販売、取引先の拡大、日本でのフェアトレードの普及などを行っています。

開発教育チーム

GET / Global Education Team

訪問授業を行った小学校で

自分たちの見たこと、体験したこと、リアルなフィリピンを伝える

2014年度は、立命館宇治高校を初めとして計3校で訪問授業を実施し、フィリピンの貧困問題の現状を日本の子どもたちや青少年に伝えました。発表内容は毎週のミーティングの中でメンバーたちが話し合い作成したもので、スタディツアーで体験してきたフィリピンの現状や交流した人々の話などを中心に、よりリアルな貧困問題の現状を伝えるように努めました。訪問授業の実施校もメンバーが母校と連絡を取って新規の訪問校を増やすなど、活動の範囲が広がっています。

行動に移す人を増やすために

訪問授業の後は、活動紹介のリーフレットや、気軽に取組める物資寄付(ココロ便)の案内を配布するなどして、授業を聴いた生徒が次のアクションを起こしてくれるよう工夫に努めました。最近では、Facebookを通じて後日GETメンバーに連絡をと



ってくれる生徒も増えており、アクションを起こす人の輪が広がっていることを実感しています。

GETのメンバーの目標は、今後も貧困問題の現状を知って行動に移してくれる人を増やすこと。そのために、2015年度はFacebookの更新を週一回行うなど広報活動に力を入れていきます。また、他チームとも共同で勉強会をするなど、メンバーの伝える力の向上にも引き続き努めていきたいと考えます。

開発教育チーム(GET) フィリピンの貧困問題の現状や原因について、教育現場での訪問授業を中心とした様々な場で「伝える」活動を行っています。スタディツアー等で実際にフィリピンを訪問した学生が中心となり、実際に自分の目で見て肌で感じたフィリピンのリアルな現状を伝える事を重視しています。フィリピンと日本の教育現場をつなぐ懸け橋として、貧困問題に対して行動を起こす人を一人でも多く増やすことを目標に掲げています。

スモーキーマウンテン支援チーム

FIT / Fine Interaction Team at Smoky Mountain

新事業地を決めるための現地訪問と、計画作りに取り組んだ一年

2014年6月、保健衛生や青年会プログラムの支援をしてきたスモーキーマウンテン2地域の住民が立退きの対象となり、住民の大半が再定住地や別の貧困地域に移住しました。そのため、2014年度を通してFITチームが力を注いだのは、新事業地を決めるための調査と、活動計画づくりでした。

2014年9月に2名、2015年3月に6名、遣唐使(トンド地区にメンバーを派遣する事業。遣唐使に倣い命名)を派遣。家庭訪問を通じた聴き取り調査や、アクセス現地スタッフとの話し合いを行いました。現地訪問前には、課題が数多くある中、メンバーと現地スタッフが主張する優先順位にずれが生じていました。ですが訪問中、青年会の若者から「活動するうちに、生きる上で困らないよう、地域の小さな子どもたちにアルファベットを教えたいと思うようになった」といった気持ちの変化を聴くことができました。また、地域リーダーや現地スタッフとも直接話したりしたことで、相互理解を深めることができ、帰国後には日本での活動にも反映させることができました。(写真は、現地訪問時)

また、チーム体制を整えるため、年末に合宿を実施。設立当



初の想いや個々の想い、現地の基本情報を共有した後、投票制でリーダーを選出しました。親睦を深め、一人ひとりが活動意義を再確認出来た良い機会となりました。

2015年は引き続き現地の人々の夢や意思を大切に、2014年度の積み重ねと学びを活動に反映させながら、工夫を凝らし楽しく活動を行います。

スモーキーマウンテン支援チーム(FIT) マニラのスモーキーマウンテン周辺で暮らす住民の「健康で選択肢ある生活を保障すること」を目的に、日本でイベントを通じた「資金調達」、現地のことを伝え支援者を増やすための「広報活動」を中心に取り組んでいます。「メンバー一人ひとりが現地への理解と関係を深めて活動に参加すること」を大切に、大学生、社会人の仲間と刺激し合いながら楽しく活動しています。

ペレーズ・アペロクルス支援チーム FACT / First Action for Community Education Team

サポーターの皆さまと奨学生の心の交流

FACT チームでは、日本のサポーターとフィリピンの奨学生の手紙による交流を支えるため、手紙の翻訳を行っています。2014 年度は FACT よりサポーターの皆さまに呼びかけを行ったところ、例年以上に多くの手紙が寄せられました。FACT メンバーが現地で、サポーターからの手紙を子どもたちに手渡した際には(写真)、子どもたちが競うように集まってきて、大変喜んでくれました。FACT ではこうした、金銭支援に留まらない、サポーターと奨学生の心の交流を重視しています。

日本の青少年と フィリピンの子どもたちの橋渡し

日本の青少年とフィリピンの子どもたちの橋渡しをすることも、FACT の重要な活動です。2014 年 8 月には、他チームと合同で翻訳体験ワークショップを企画し、大阪府立福井高校の生徒さんに、フィリピンから届いた手紙の翻訳を体験してもらいました。実際に子どもたちの書いた手紙に触れて翻訳体験をする事で、フィリピンをより身近に感じてもらえたようです。

ピナツボ支援チーム PEACE Pinatubo Educational and Agricultural Community Empowerment

2010 年に発足した PEACE(ピナツボ支援チーム)は、ピナツボ火山被災地であるパンパンガ州ポーラック町ミトラ地区での教育支援活動を日本からサポートすることを目的に活動しています。被災後 16 年間教育施設がなく、2008 年によりややく小学校が再開したミトラ地区。PEACE は、ミトラ地区の教育環境の改善に貢献しようと、追加の教育施設の建設に向け、100 万円を目標に資金集めの活動に取り組んできました。

そして 2014 年 6 月、PEACE の努力によって集められた資金と、大阪コミュニティ財団「がっこう基金」からの助成金によって、ついに幼稚園・社会教育センターを建設することができました！大きな目標だった施設建設が実現した 2014 年度は、幼稚園・社会教育センターの運営費(年間約 38 万円)を集めることを新たな目標とし、5 月 31 日に第 2 回チャリティ・フットサル大会を開催しました。100 名を超える大学生が参加してくれ、大会からの収益は 61,747 円となりました。



FACT メンバーの願いは、これから子どもたちの素晴らしい笑顔を守っていくこと。そのために、2015 年度は奨学生とサポーターのつながりを深める事に引き続き重点を置きながら、一人ひとりのメンバーが自主的に発言し企画立案できる環境を作っていくことを目指します。

ペレーズ・アペロクルス支援チーム(FACT) は、農漁村地区ペレーズと、都市貧困コミュニティのアペロクルス地区を支援しています。ペレーズは、地主制度のため農漁村でありながら自給自足ができないという厳しい状況にあり、アペロクルスは都市貧困問題を抱えています。アクセスでは両地区で一人でも多くの子どもたちが小学校を卒業できるよう、奨学金プログラムを続けています。2014 年度の奨学生数はアペロクルスで 6 人、ペレーズでは 155 人。この奨学金プログラムの運営を日本で支えているのが、FACT チームです。



(左)2014 年 6 月に完成した幼稚園・社会教育センター。

(右)8 月に 2 名の PEACE メンバーが、ピナツボ被災地を訪問した際の写真

8 月には、PEACE チームメンバー 2 名がピナツボ被災地を訪問、6 月に完成した幼稚園・社会教育センターを見学することができました。教室は、保護者の方々の協力によってかわいく装飾され、子どもたちが楽しく学べる雰囲気になっており、地域の教育環境が改善していることを実感することができました。

2015 年度も、メンバーが楽しみながら取り組める活動を通じて現地事業を支える資金を集め、同時にミトラ地区がどのように復興・発展しつつあるのかを日本の人々に伝えていきたいと思っています

東京支部 Tokyo Branch

東京で、きっかけ作りを

就職を機に関西から関東へ引っ越した会員・スタッフや、関東在住のスタディツアー（以下ツアー）参加者からなる東京支部は、「国際協力に興味があるけど、動き出せていない人へのきっかけ作り」、「ツアー参加者を増やす」を目的に現在 5～6 名が活動しています。「学生時代に得た経験を生かしたいという想い」、「個々のペースで活動すること」、「来るもの拒まず、去る者追わず」を大切に、新しい仲間を迎えつつ、居心地良い雰囲気の中で活動しています。

東京での初のイベント開催、大成功！

2014 年度は、フィリピンの現状を伝え、アクセスの活動に参加してくれる人を募るイベントの開催に力を入れました。メンバー皆初めてのことで、お客さんの満足いく内容を作ることができるのか、集客できるのだろうか…と不安でした。初回だけ京都メンバーに来てもらい力を借りては？との意見もある中、京都での活動を東京にも広げる目的なのにそれでは本末転倒…ということで、京都よりアドバイスをもらい、自分たちが出来ることを信じ、

広報委員会

8 年間の活動を経て、解散

年 4 回、会員・サポーター・協力者の皆さまにお送りしているニュースレター「となりのアジア」。この編集・制作を 2007 年から担ってきたのが、広報委員会です。皆さんに、アクセスの活動は現地でどんな風に役立っているのか、事業は今どんな苦労に直面しているのか、日本ではどんな取り組みが進んでいるのか、といったことを伝えるのが、広報委員会の役割です。

2 ヶ月に 1 回程度のペースで開催するミーティングでは、過去のニュースレターを振り返り、次号のトピックを決めています。その後、日本とフィリピンのスタッフに執筆依頼を出し、約 1 ヶ月後にはフィリピンから届いた英文原稿を翻訳ボランティアが日本語に訳します。日本語訳された原稿はデザイン担当ボランティアのもとに送られ、1 週間ほどの作業期間を経て、印刷業者に入稿です。こうしたプロセスを、最近では主に社会人ボランティア



東京で初めて開催した、イベントの様子

会議とリハーサルを重ね、当日を迎えました。申込みは定員 15 人を超え、キャンセル待ちが出たほど。不安や苦労はあったものの、参加者全員から「満足」「大変満足」との評価もいただき、何より大勢の方が参加してくださったことに良い手ごたえを感じました。普段なかなか知り合えないような人と触れあえる機会があることも、活動の醍醐味の一つです。

2015 年度に力を入れたいことは、引き続き、①国際協力に興味があるけど動き出せていない人へのきっかけ作り、②ツアー参加者を増やす、の 2 点です。イベントは 2 回開催、参加者 40 名、そのうち 1 人はツアー参加に繋ぐ事が目標です。関東にお住まいの方、ぜひお気軽にお越しください。活動への参加、いつでも歓迎します。



が担ってきました。

しかし、2014 年度は多くのメンバーの生活スタイルが変化するなど、ミーティングや作業に関われるメンバーが減り、多くの業務を事務局スタッフが担わざるを得なくなっていました。そして 2015 年 3 月、広報委員会メンバーの大半が、2015 年度の活動参加が難しいことが明らかになったため、事務局として広報委員会の解散を決断するに至りました。

今後しばらくは、ニュースレター「となりのアジア」の制作は、事務局が中心となり、単発ボランティアの方々の力を借りながら進めていく予定です。8 年間の広報委員会の歴史の中で、「となりのアジア」制作に関わって下さったすべてのボランティアの皆さんに、心よりお礼申し上げます。どうもありがとうございました。

カフェイベント実行委員会

カフェのようなリラックスできる環境で 国際協力や貧困について考える

会議室のような堅苦しい空間ではなく、カフェのようなリラックスできる環境で、気軽にフィリピンや貧困問題、自分にできる国際協力について考える場を作ろう！そんな思いで、2013 年度末から始めたのが、カフェイベント事業です。

これまで、フィリピンの貧困を疑似体験する「家計簿づくりワークショップ」や、気軽にできるボランティアを体験する翻訳ワークショップ、フィリピン料理教室（コープ自然派京都主催、アクセス協力）、働きながら国際貢献しているゲストのお話を聞くトークライブなど、さまざまな形式のイベントを実施してきました。

2014 年度からはカフェイベント実行委員会を立ち上げ、事務局とボランティアスタッフ、インターンが協力する形で実施しました。実行委員会形式にしたことで、ボランティアの率直な意見



京都在住フィリピン人女性を講師とし、コープ自然派京都が開催した料理教室に協力

が反映されるようになり、イベントの内容や質も向上しています。

1 年間で、103 名の方々が参加

2014 年度は、全 6 回のイベントに合計 103 名の方々に参加いただき、その中から 2 名がサポーターとして、別の 2 名がボランティアとして活動に参加していただくようになりました。今後も改善を重ねながら様々なイベントを開催し、活動に協力してくれる人の数を増やしていきたいと思っています。

翻訳チーム

年間 800 点の書類を翻訳

フィリピンの農漁村地区アラバット島ペレーズで、2014 年度は 155 人の子どもたちがアクセスの奨学金を受けて学校に通いました。この奨学生の子どもたちと、日本のサポーターの間では、メッセージカードなどのやりとりが行われています。1 年間でやりとりされる書類の数は、約 800 点。以前は、ペレーズ・アベロクルス支援チーム(FACT)の学生スタッフがこれら翻訳のすべてを担っていましたが、奨学生の増加により業務量が急激に増えたため、翻訳業務を専門的に取り扱う翻訳チームを 2014 年度に立ち上げました。

20～60 代、男女 7 名のメンバーたち

翻訳チームが発足したのは、2014 年 4 月。事務局の「翻訳ボランティア募集」の呼びかけに応えてくれた、20 代～60 代の社会人ボランティアの方々 7 名によって構成されています。2014 年度は、書類の翻訳のほか、フィリピン独特の表現をまとめた単語帳を作成しました。また、年度後半はサポーター向け



翻訳チームが訳を担っている、カードの一部

のハンドブックやプロフィール記入用紙の制作に取り組み、2015 年度中にサポーターの皆さまにお届けする予定です。翻訳チームメンバーの工夫により、サポーターの方々が奨学生やフィリピンをより身近に感じてもらえるようにしていければと考えています。

これまで、学生ボランティアの存在が目立つアクセスでしたが、今後は翻訳チームを中心に、社会人の方々の経験やスキルを生かしてもらえるような活動の場作りにも力を入れていきたいと思っています。

2014年度決算報告

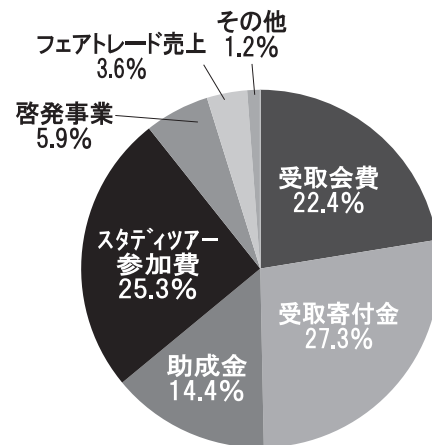
活動計算書

自2014年4月1日至2015年3月31日

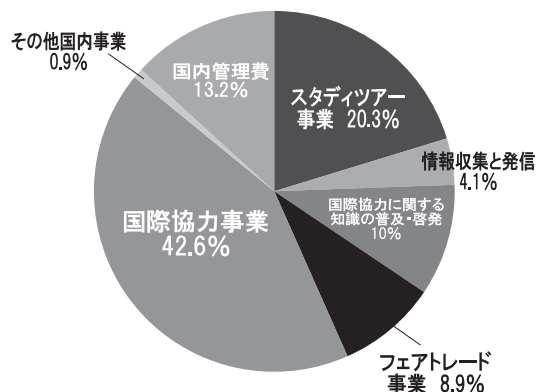
(単位:円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	630,000		
賛助会員受取会費	833,000		
講読会員受取会費	15,000		
フロンティア会員受取会費	3,275,000		
マンズリー会員受取会費	2,000		
		4,755,000	
2. 受取寄付金			
一般受取寄付金	2,712,700		
事業受取寄付金	3,067,685		
		5,780,385	
3. 受取助成金等			
受取民間助成金	3,042,991		
		3,042,991	
4. 事業収益			
途上国の現実に学ぶ事業	5,360,640		
国際協力に関する知識の普及・啓発事業	1,246,609		
フェアトレード事業	771,343		
国際協力事業	187,200		
その他国内事業	60,000		
		7,625,792	
5. その他収益			
受取利息	1,403		
		1,403	
経常収益計			21,205,571
II 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
給料手当	3,723,400		
ボランティア謝礼	23,736		
通勤費	144,810		
法定福利費	562,652		
人件費計	4,454,598		
(2)その他経費			
海外事業費	12,388,862		
売上原価	322,209		
広報宣伝費	200,313		
業務委託費	42,030		
諸謝金	35,000		
印刷製本費	337,193		
旅費交通費	840,554		
通信運搬費	436,284		
消耗品費	241,792		
水道光熱費	121,181		
地代家賃	533,962		
賃借料	600		
減価償却費	24,060		
保険料	41,980		
出展費用	22,000		
雑費	3,573		
その他経費計	15,591,593		
事業費計		20,046,191	
2. 管理費			
(1)人件費			
給料手当	1,802,359		
通勤費	74,500		
法定福利費	91,594		
人件費計	1,968,453		
(2)その他経費			
業務外注費	99,000		
印刷製本費	91,487		
会議費	73,070		
旅費交通費	145,230		
通信運搬費	114,589		
消耗品費	79,662		
水道光熱費	40,394		
地代家賃	177,988		
賃借料	900		
新聞図書費	6,156		
諸会費	70,000		
租税公課	71,069		
支払手数料	114,418		
雑費	2,000		
その他経費計	1,085,963		
管理費計		3,054,416	
経常費用計			23,100,607
当期経常増減額			△ 1,895,036
III 経常外費用			
経常外費用計			0
当期正味財産増減額			△ 1,895,036
前期繰越正味財産額			10,093,136
次期繰越正味財産額			8,198,100

収入内訳



支出内訳



※当該年度は特定非営利活動に係る事業以外の事業については実施していません。

2014年度決算報告

貸借対照表 2015年3月31日現在

(単位:円)

資 産 の 部		金 額	負 債 ・ 正 味 財 産 の 部		金 額
科 目			科 目		
【流動資産】			【流動負債】		
(現金・預金)	現 金	237,304	未 払 金		320,559
	普通 預金	8,482,541	前 受 金		1,632,141
	現金・預金 計	8,719,845	預 り 金		18,425
(売上債権)	売 掛 金	25,626	未払法人税等		70,000
	未 収 金	243,400	流動負債 計		2,041,125
	売上債権 計	269,026	負債の部合計		2,041,125
(棚卸資産)	棚卸 資産	841,104	正 味 財 産 の 部		
	貯 蔵 品	122,853	【正味財産】		
	棚卸資産 計	963,957	前期繰越正味財産額		10,093,136
(その他流動資産)	前 渡 金	62,337	当期正味財産増減額		△ 1,895,036
	その他流動資産 計	62,337	正味財産 計		8,198,100
流動資産合計		10,015,165	正味財産の部合計		8,198,100
【固定資産】					
(有形固定資産)	什 器 備 品	24,060			
	有形固定資産 計	24,060			
(投資その他の資産)	保 証 金	200,000			
	投資その他の資産 計	200,000			
固定資産合計		224,060			
資産の部合計		10,239,225	負債・正味財産の部合計		10,239,225

財務諸表の注記 (2014年4月1日から2015年3月31日)

- 重要な会計方針
財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。
(1) 固定資産の減価償却の方法
有形固定資産は、定額法で償却をしています。
(2) 棚卸資産の評価基準および評価方法
棚卸資産の評価基準は原価基準により、評価方法は先入先出法によっています。
- 事業別損益の状況
事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位:円)

科 目	途上国の現実に 学ぶ事業	情報収集・発信 事業	国際協力に 関する知識の 普及・啓発事業	フェアトレード事業	国際協力事業	その他国内事業	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益									
1. 受取会費	0	0	115,000	175,000	2,971,000	0	3,261,000	1,494,000	4,755,000
2. 受取寄付金	0	0	24,469	0	2,590,216	0	2,614,685	3,165,700	5,780,385
3. 受取助成金等	0	0	0	0	942,991	0	942,991	2,100,000	3,042,991
4. 事業収益	5,360,640	0	1,257,909	760,043	187,200	60,000	7,625,792	0	7,625,792
5. その他収益	0	0	0	0	0	0	0	1,403	1,403
経常収益計	5,360,640	0	1,397,378	935,043	6,691,407	60,000	14,444,468	6,761,103	21,205,571
II 経常費用									
(1) 人件費									
給料手当	304,898	304,898	1,590,857	959,862	445,614	117,271	3,723,400	1,802,359	5,525,759
ボランティア謝礼	0	0	0	23,736	0	0	23,736	0	23,736
通勤費	4,328	4,328	68,489	59,678	6,322	1,665	144,810	74,500	219,310
法定福利費	45,764	45,764	237,211	149,428	66,884	17,601	562,652	91,594	654,246
人件費計	354,990	354,990	1,896,557	1,192,704	518,820	136,537	4,454,598	1,968,453	6,423,051
(2) その他経費									
海外事業費	3,932,414	0	1,624	0	8,454,824	0	12,388,862	0	12,388,862
売上原価	0	0	0	306,104	16,105	0	322,209	0	322,209
広報宣伝費	0	0	79,163	30,495	90,565	90	200,313	0	200,313
業務外注費	4,203	2,102	8,406	8,406	16,811	2,102	42,030	99,000	141,030
諸謝金	0	0	35,000	0	0	0	35,000	0	35,000
印刷製本費	39,957	275,076	8,240	0	0	13,920	337,193	91,487	428,680
会議費	0	0	0	0	0	0	0	73,070	73,070
旅費交通費	220,224	0	39,510	210,396	340,634	29,790	840,554	145,230	985,784
通信運搬費	32,158	269,912	45,737	58,172	28,033	2,272	436,284	114,589	550,873
消耗品費	25,153	15,797	50,312	52,994	92,795	4,741	241,792	79,662	321,454
水道光熱費	8,482	7,270	26,661	26,661	49,683	2,424	121,181	40,394	161,575
水道光熱費	37,377	32,040	117,473	117,473	218,919	10,680	538,962	177,988	711,950
地代家賃	600	0	0	0	0	0	600	900	1,500
賃借料	0	0	0	0	0	0	0	0	0
減価償却費	25,813	192	766	13,486	1,531	192	41,980	0	41,980
保険料	1,000	0	0	21,000	0	0	22,000	0	22,000
出張費用	0	0	0	0	0	0	0	6,156	6,156
新聞図書費	0	0	0	0	0	0	0	70,000	70,000
諸会費	0	0	0	0	0	0	0	71,069	71,069
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	114,418	114,418
支払手数料	0	0	1,296	2,277	0	0	3,573	2,000	5,573
雑費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他経費計	4,327,381	602,389	414,188	871,524	9,309,900	66,211	15,591,593	1,085,963	16,677,556
経常費用計	4,682,371	957,379	2,310,745	2,064,228	9,828,720	202,748	20,046,191	3,054,416	23,100,607
当期経常増減額	678,269	△ 957,379	△ 913,367	△ 1,129,185	△ 3,137,313	△ 142,748	△ 5,601,723	3,706,687	△ 1,895,036
III 経常外費用									
	0	0	0	0	0	0	0	0	0
III 当期正味財産増減額	678,269	△ 957,379	△ 913,367	△ 1,129,185	△ 3,137,313	△ 142,748	△ 5,601,723	3,706,687	△ 1,895,036

- 使途等が制約された助成金等の内訳
使途等が制約された助成金等の内訳は以下の通りです。

(単位:円)

内 容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備 考
事業指定寄付金	810,028	0	310,059	499,969	台風30号被災者支援
事業指定寄付金	0	240,000	240,000	0	バヤタス給食支援
事業指定寄付金	0	300,000	300,000	0	マイクロファイナンス
近畿労働金庫「心のそな」事業	△ 160,000	1,656,000	1,496,000	0	給食・教育支援(期首残高は前年度充当の未入金額です)
夢屋基金 助成金	240,000	0	240,000	0	バヤタス教育支援
JEC連合「スマイルbyJEC」助成金	0	100,000	100,000	0	バヤタス教育支援
連合「愛のキャンパ」助成金	0	500,000	500,000	0	バヤタス教育支援
三井住友銀行ボランティア基金 寄付金	666,667	0	666,667	0	マイクロファイナンス
関西地域NGO助成プログラム 助成金	181,835	0	181,835	0	カフェイベント
アークス仏教国際協力ネットワーク 助成金	0	1,500,000	1,500,000	0	NGO組織強化支援
大阪コミュニティ財団 助成金	0	942,991	942,991	0	ビナツボ社会教育センター建設
合 計	1,738,530	5,238,991	6,477,552	499,969	

財産目録

2015 年 3 月 31 日現在

資産の部		
【流動資産】		
(現金・預金)		
現金	237,304	
事務局	(27,048)	
ピナツボ支援チーム	(4,170)	
スモークマウンテン地区支援チーム	(92,813)	
フェアレド事業部	(98,160)	
開発教育支援チーム	(15,113)	
普通預金	8,482,541	
三菱東京UFJ銀行京都中央支店	(4,153,612)	
三菱東京UFJ銀行京都支店(FIT)	(376,998)	
ゆうちょ銀行	(118,723)	
関西アーバン銀行藤森支店(FTT)	(1,808,217)	
近畿労働金庫伏見支店	(817,420)	
郵便振替	(1,207,360)	
三菱東京UFJ銀行出町支店(FTT)	(211)	
現金・預金 計	8,719,845	
(売上債権)		
売掛金	25,626	
3月フェアレド商品翌月入金分	(25,626)	
未収金	243,400	
3月会費翌月入金分	(235,000)	
奨学金支援残額	(8,400)	
売上債権 計	269,026	
(棚卸資産)		
棚卸資産	841,104	
FT商品	(793,678)	
FIT商品(クリアファイル)	(20,828)	
FIT商品(タオル)	(26,598)	
貯蔵品	122,853	
書き損じハガキ	(70,935)	
切手等	(51,918)	
棚卸資産 計	963,957	
(その他流動資産)		
前渡金	62,337	
ACCESSファイル FT事業部前渡金	(62,337)	
その他流動資産 計	62,337	
流動資産合計		10,015,165
【固定資産】		
(有形固定資産)		
什器 備品 (FT事業部PC)	24,060	
有形固定資産 計	24,060	
(投資その他の資産)		
保証金	200,000	
投資その他の資産 計	200,000	
固定資産合計		224,060
資産の部 合計		10,239,225
負債の部		
【流動負債】		
未払金	320,559	
事務所家賃3・4月分	(122,860)	
3月分業務交通費	(6,804)	
ACCESSファイル送金分	(166,209)	
会費過納返金分	(13,000)	
購入先支払分	(7,694)	
業務委託手数料	(3,992)	
前受金	1,632,141	
奨学金次年度以降分	(1,632,141)	
預り金	18,425	
源泉所得税	(18,425)	
未払法人税等	70,000	
流動負債 計		2,041,125
負債の部 合計		2,041,125
正味財産		8,198,100

監査報告書

監査報告書

特定非営利活動法人アクセス
 ー共生社会をめざす地球市民の会
 理事長 新聞 純也 殿

平成27年5月27日

監事 渡邊 功

私は、平成26年度（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）
 における特定非営利活動法人アクセスー共生社会をめざす地球市民の会の
 業務及び財産の状況を監査の結果、いずれも不正の行為又は法令若しくは定
 款に違反する重大な事実は認められませんでした。

以上

2015年度事業計画

フィリピン

2015年度事業の概要

2015年度フィリピンでは、5つの事業地での活動を継続し、プログラム参加者の増加、組織化の強化、活動の質の向上をすすめます。また、日本とともに「アクセスの10年後のビジョン」を描く議論をすすめます。

事業地ごとの取り組み課題と目標

2015年度のフィリピン事業は、2014年度の事業の中で現れた課題の解決を図りつつ、これまでの事業を継続します。また、トンド地区において新規事業を始めます。

1. ペレーズ地区

奨学金プログラムでは、奨学生を200名に拡大。2016年度から実施予定の中高生支援の準備を進めます。奨学生会や保護者会に働きかけ、「子どもの保護に関する村評議会」の活性化を通じた、子どもに優しいコミュニティの実現をめざし、活動を継続します。

フェアトレードプログラムでは、生産者の能力強化と販路の拡大をめざします。

マイクロファイナンスでは、事業評価を実施し、今後事業を継続するか否かの判断を行います。

青年会は植樹や清掃など地域への貢献活動を継続すると共に、2015年度は文化活動に力を入れます。

ペレーズ地区	14年度実績	15年度予定
奨学金・給食プログラム	155人	200人
フェアトレードプログラム	10人	11人
青年会プログラム	20人	20人
マイクロファイナンス(小額融資)プログラム	90人	未定

トンド地区	14年度実績	15年度予定
青年会プログラム	12人	20人
奨学金プログラム	-	20人

ピナツボ地区		14年度実績	15年度予定
教育・給食プログラム	小学校	118人	126人
	幼稚園	55人	54人
社会教育(主婦・青年)		17人	18人
カラバオ(水牛)供給プログラム		1家族	3家族

アペロクルス地区	14年度実績	15年度予定
奨学金プログラム	6人	2人

パヤタス地区	14年度実績	15年度予定
デイケアセンターの運営	50人	50人

2. トンド地区

青年会プログラムは、トンド・スモーキーマウンテン地区周辺に暮らす若者を対象にスポーツや文化活動を通じた組織化を継続します。他方、スモーキーマウンテン地区のゴミ捨て場周辺コミュニティでの保健衛生事業終了に伴い、隣接する地区の調査を行ってきましたが、スモーキーマウンテン地区の南隣に位置する仮設住宅地区での奨学金プログラムを新たに開始する予定です。

3. ピナツボ地区

小学校・幼稚園への教育・給食支援を継続します。また2014年度に建設した社会教育センターにおいて、幼稚園年少組の運営および主婦・青年を対象とした社会教育を実施します。また、小学校・幼稚園のPTAを対象とした子どもの権利・福祉に関する啓発事業を行います。カラバオ(水牛)供給プログラムも継続します。

4. アペロクルス地区

奨学金事業を継続します。

5. パヤタス地区

幼稚園年長組・年少組の運営を行い、週5日の授業と給食、月1回の保護者会ミーティングと子どもの権利、保健衛生、立ち退き問題に関するセミナーを実施します。

6. 管理部門

次の諸項目を重点課題と位置づけ、取り組みます。

1) 10年後のビジョン議論の推進、2) 次世代のスタッフ(特に生計プログラム担当者)の育成、3) 運営規則の改訂

日本

2015年度事業の概要

2015年度はフィリピンとともに、「アクセスの10年後のビジョン」議論を継続します。長期的なビジョンを掲げながら、それに照らして現行の事業を評価・修正することで、会員・ボランティアスタッフ・職員・理事などが団結して前向きに課題に取り組める環境づくりを進めます。

また、より多くの人にアクセスを知ってもらい、ともに活動を創ってもらえるよう、スタディツアー以外のルートでの認知度向上のための取組みを継続し、入会、ボランティア参加、寄付などにつなげることをめざします。

1. 参加しやすい仕組みづくりと広報

一人でも多くの方に活動に参加・協力していただけるよう、以下のような取組みを工夫しながら進めます。

【伝わる情報発信】

- 1) Facebook を活用したこまめな情報発信
- 2) 団体リーフレットの改訂
- 3) 公式ホームページのリニューアル
- 4) 多様な団体とのコラボ・連携イベントの実施
- 5) プレスリリースを通じてメディア露出を拡大

【気軽に協力してもらうための取組み】

- 1) 書き損じハガキ収集キャンペーンの継続(3600枚)
- 2) 中古CD・DVD・本・ゲームを集めてフィリピンを支援する「ココロ便」(ブックオフとの連携事業)の継続(40万円)
- 3) メールマガジンの改善、配信先の拡大(参加しやすいボランティア・イベント情報の発信)

【会員・サポーターになってもらうための取組み】

- 1) アクセス主催イベントの開催(年5回)
- 2) 支援の意義や効果を分かりやすく伝える会員・サポーター募集キャンペーンの実施(4キャンペーン)
- 3) クレジットカード決済システムの積極的運用

【社会人でも参加しやすい活動づくり】

- 1) 社会人翻訳チームの更なる活性化
- 2) カフェイベント実行委員会のボランティア組織化

【情報発信および信頼構築のためのコミュニケーション】

- 1) ニュースレター「となりのアジア」の年4回発行
- 2) 年次報告書の年1回発行
- 3) 会員・サポーター・支援者の皆さまへのクリスマスカード

2. 10年後のビジョン議論

ボランティアスタッフ、会員・サポーター、職員、理事などさまざまな人々が参加できる形で10年後のビジョン議論を継続

し、2016年度上半期に完成させます。

2015年度上半期に事務局が中心となって議論の準備を進め、下半期には月1回のペースで議論の場を用意します。ボランティア、会員・サポーター、職員、理事の方々に参加いただき、さまざまな方の意見を伺いながら、10年後のビジョンをまとめていきます。

3. 地球市民教育事業

フィリピンの貧困の現状、貧困や戦争の原因、そしてそれらの問題をアクセスがどのように解決しようとしているのか。そういったことを発信し、共感してくれる人を増やしていくのが「地球市民教育」です。2015年度も引き続き職員の「伝える技術の向上」に取り組み、講義・講演からの活動参加につなげます。また、4回のスタディツアーの他に、高校のフィリピン研修を受け入れます。

4. フェアトレード事業

フェアトレード事業3ヵ年計画の3年目にあたる2015年度は、ボランティア中心の体制に戻しますが、売上目標を181万円とし、売り上げ拡大に向け以下の課題に取り組めます。

- 1) カード生産:品質向上と新商品開発(20種)
- 2) カード販売:(29件、116万円の売り上げ)
- 3) ココナッツ雑貨生産:主力商品の絞り込みと新商品開発
- 4) ココナッツ雑貨販売:取引先拡大の試み、65万円の売上

5. その他

以上の取組みを支える基盤を強化し、持続可能な組織を実現するために、以下のような取組みを進めます。

- 1) 認定NPO法人格取得申請
- 2) 新たなデータベース(Salesforce)の導入
- 3) アクセス・フィリピンへの運営サポート:年4回の訪問
- 4) 新職員を対象にした研修の実施
- 5) 働きやすい労働環境のための就業規則の改訂

私たちのめざすもの 「誰も犠牲にしない豊かな社会」



■痛みを和らげながら、原因にも目を向ける

アクセスのミッション（使命）は、3つです。

1つ目は、貧しい人々が今まさに直面している貧困の痛みを和らげようとする活動（教育、保健衛生、生計面などの支援）です。2つ目は、貧困の原因を明らかにしながら、貧困をなくそうとする人々を増やすことです。3つ目は、それら2つを実践し、よりよい社会を創っていく力を、日本人・フィリピン人ともに身につけてもらうために、協力できる場を提供することです。どれか1つ欠けても、貧困をなくすことはできないと考えています。

■国境を越えて思いやりあう関係を築く

アクセスの奨学金プログラムは、週300円（年間15000円）で一人の子どもを小学校に通えるようにする、教育里親制度です。奨学金を受給したとしても、その家族がすぐに貧困から抜け出せるわけではありません。しかし、食事さえ満足に準備できないような時であっても、「日本で応援してくれている人がいるんだから、何とか頑張らないか」と感じる人は多く、支援者の存在が心の支えとなっています。他方、日本の奨学金サポーターの中には、「フィリピンの子どもたちから届く手紙が励みになり、辛い仕事も頑張れます。」とおっしゃる方もいます。単なる経済援助ではなく、「国境を越えて思いやりあう関係を築くこと」ができればと思いながら、プログラムを実施しています。

貧困の中で生きるとは、次々と問題が押し寄せる毎日を生き延びるということです。私たちNGOにそれら全ての問題を解決することはできませんし、問題を解決していくのは問題の中で生きる人々自身です。そんな中、「希望を持ち、前を向いて生きていこう」と思えるよう支援するのが、私たちNGOの役割だと考えます。

■ペレーズの漁獲量減少と日本

アクセスの事業地の1つペレーズ地区の漁師は言います。「20

年前は数時間で何キロもの魚がとれた。でも今は、8時間漁を続けてもせいぜい2〜3キロだ。」ペレーズ近辺の漁獲量減少の最大の原因は、日本、中国、台湾、韓国などから来る大型漁船による乱獲と言われています。実は私たちは、知らず知らずのうちにフィリピン近海でとれた魚を、日本で口に入れているのです。

「より便利で、より安く、より質の高い暮らし」を求める日本のライフスタイルは、見えないところで、ほかの国の人々の生活に影響を与えています。こうした日本のライフスタイルを見直し、どうすれば「誰もが人間らしく幸せに暮らせる世界」、「見えないどこかで誰かを犠牲にしない世界」を創れるのか、考えていく必要があるのではないのでしょうか。

■「誰も犠牲にしない豊かな社会」をめざして

日本は中流層の多い経済大国から、格差社会に転落しようとしています。貧困問題は南の国の問題だけではありません、日本でも子どもの貧困・女性の貧困の問題が深刻化しています。そうした中で、世界の見えない誰かを犠牲にすることなく、例えば私たちが直接かかわっているフィリピンの貧しい人々とともに、より多くの人が幸せを感じられるような社会や世界のあり方について議論し、実践していくことがますます必要になっています。

原始時代のような暮らしに後戻りするのではなく、しかし便利さや物質的な豊かさばかりを追いつめるのでもない。個人の多様な価値観を尊重しながらも困った時は助け合えるような、新しい形の「豊かな社会」「豊かな世界」が必要になっているのではないのでしょうか。

アクセスは、経済的な貧しさを克服しながら、新しい形の「豊かな社会」を築こうとする人々が出会い、協力できるような場でありたいと考えています。そうした協力が国境を越えて広がり、希望を持って生きられる人が一人でも増えるように、皆さまとともに活動を創っていききたいと思います。

私たちのめざすもの 「私たちの活動の柱」

活動の柱1

エンパワメントという考え方

なかまと出会い、協力し、力をつけ、
ともに課題を解決する

私たちは、貧困問題を解決する主体は、貧困の中で生きる住民自身であると考えています。その上で、住民自身が自らを組織し、協力して自分たちの抱える問題を解決する力を身につけること(エンパワメント)を支援することが、NGOの主要な役割であると考えているのです。

具体的には、教育支援、生計支援、青年育成などのプログラムを通じて生活改善をすすめながら、プログラム参加者の組織づくりを行い、活動の一部または全部を住民自身の手で運営できるようになることをめざしています。また、各地域の貧しい人々が抱える問題(都市貧困コミュニティであれば強制立ち退きの問題、農村であれば大土地所有制の問題など)にも取り組むことのできる、地域全体をカバーする住民自身によって構成された住民協議会の建設もめざしています。

一人ひとりの人間が持つ力は小さくても、得意分野を活かし、支えあい、学びあい、協力する場となる組織があれば、貧困に立ち向かうための大きな力を生みだせる。そう信じて、組織づくりを通じたエンパワメントを大切にしています。

私たちが創ろうとする住民組織とは

私たちが最貧層の人々と共に創り出そうとしている、貧しい人々自身の組織(People's Organization=PO)は、次のような力を持つ組織です。

1. 民主主義を実践する力
2. 事業を運営する力
3. コミュニティ内のより貧しく、より抑圧されている人々を優先することのできる力
4. コミュニティの内外を問わず、人権・戦争(支配者による暴力的支配)という諸問題に取り組むことのできる力
5. 他のコミュニティ・他の地域・他の国の民衆の貧困・人権・戦争(支配者による暴力的支配)への取り組みに開かれ、連帯することのできる力
6. 地方や中央政府と交渉し、場合によっては闘うことのできる力

他方、「北」(先進国)の市民のエンパワメントも、NGOの重要な役割であると考えています。「南」(発展途上国)の貧困問題は、16世紀以降の近代植民地支配に始まる「北」による「南」の支配と搾取の結果です。この地球にある限られた資源や土地を、より多く手に入れることができる、またはより多く利用できる国や人々だけが豊かになり、それらを奪われたり自由に利用できない国や人々は貧しさを強いられます。貧困問題を解決するには、そうしたアンフェアな世界の仕組みを変えていく必要があります。

そして、そうした世界の仕組みを変えていくためには、「南」の貧しい人々の努力だけでなく、「北」の市民の自覚と参加が不可欠です。経済的に豊かであっても、社会を変える力をまだ十分に持たない私たち「北」

の市民が協力できるネットワークを創り、議論と実践の場を提供することでエンパワメントする。それもまた、NGOの任務だと考えます。

アクセス日本のボランティア活動の促進に重点を置いた活動は、まさにその実践です。アクセスの目的に沿いつつも、それぞれ異なるテーマや課題を掲げたチームが組織され、独自の会議と活動を持って、自分たちで決めたことを自分たちで実行しています。現在、10の支援チーム・事業部・支部・委員会が活動を継続しており、チームメンバーとして登録されているボランティアスタッフの数は90名を超えています。

私たちにとってボランティアスタッフとともに進める活動は、日本の市民のエンパワメントの一つの形であり、それ自身が私たちの会の目的となっています。そして、ボランティアスタッフ自身がさらに多くの人々に働きかけ、エンパワメントを進めているのです。

活動の柱2

地球市民という考え方

「日本人」「フィリピン人」という区別を越えて
「地球市民」として考え、行動する人を増やす

貧困問題に取り組むとき、『南』の問題は『南』の人々が解決するのであり、『北』の人々はそれを外部から支援するだけである」という考え方があります。しかし私たちは、たとえ「南」の地域で発生している問題であっても、「北」の市民も「地球市民」として「南」の市民と同じように問題に主体的に取り組むことができるし、取り組むべきであるという考え方をしています。

1980年代以降、グローバリゼーションが急速に進展・深化し、多国籍企業化による資本の「北」から「南」への移動と、移民・出稼ぎ労働者の「南」から「北」への移動が歴史的規模で進行しています。1990年代以降の日本のNGO活動の発展も、こうした文脈の中にあります。そうした中で、「南」と「北」の市民同士の、政府や企業を媒介としない直接的なつながりが、国境を越えて質・量共に発展しています。日本の社会や政府の問題は日本人の問題、と済ませてしまうことのできない状況が生まれつつあるのです。フィリピンの社会や政府の問題も同様です。

こうした社会背景のもと、アクセスはスタディーツアーをエンパワメントと地球市民形成のための重要な環としてとらえ、力を入れて取り組んできました。また、フィリピンで日本人インターンを積極的に受け入れ、支援チーム・事業部も、年に1〜2度フィリピンのプロジェクト地を訪れ、支援している住民との交流や担当スタッフとの会議を直接行ってきました。アクセスの組織自身も、形式的には日比それぞれの国家の法律に基づきそれぞれの国に法人を組織していますが、実質的には単一の国際NGOとして活動を行っています。

こうして、私たちは「南」と「北」で市民のエンパワメントを進めながら、国境や国籍を超えて同じ目的を共有する「地球市民」という意識でたくさんの人々をつなげ、市民同士の直接の協働関係を築くことを通じて、貧困問題を解決しようとしています。

※本文書は要約版です。「私たちの活動の柱」全文は、
<http://www.page.sannet.ne.jp/acce/pdf/vision.pdf>
で、ご覧いただけます。

私たちのめざすもの 「エンパワメントと組織化」

「エンパワメント」とは、アクセスが貧しい人々の支援をする際、もっとも重視している考え方です。
エンパワメントには様々な定義がありますが、簡単に言えば、
「人々の持つ潜在能力をひきだし、自ら問題を解決できるような力をつけること」と言えます。

自立支援としてのエンパワメント

貧しい人々の生活状態をよくしたいと思ったとき、支援の仕方にはさまざまな方法があります。1つは、食事を提供したり、着るものを提供したり…今まさに足りていないものを、現物で提供するという支援です。これは短時間ででき、成果もわかりやすい。けれども、多くの貧しい人々は「援助をもらうより、自ら働いて生活を良くしたい」と願っているのが現実です。

そこで多くのNGOが行っているのが、「問題を解決する手段を教える」という支援です。貧しい農民には、より収穫を得られるような農法を教える。子どもたちには、将来、安定した仕事につきやすくするために、教育の機会を提供する。働きたくても仕事が見つからない人には、商品として売れる品物を作る技術を身につけてもらえるよう訓練する。こうして、それぞれの人が直面している課題について、その課題を解決するための力を身につけられるような支援(エンパワメント)を行うのです。アクセスのプログラムのほとんどが、これに当てはまります。しかし、アクセスはそれだけで終わりにたくないと考えています。

「協力する力をつける」エンパワメント

ある子どもを大学進学まで支援し、卒業後に一流企業に就職できたしましょう。その子は家族のために立派な家を建て、携帯電話やコンピュータを買って、不自由ない生活を実現することができるようで、でも、その子が他の貧しい家族については気にかけないとしたら…？

フィリピンでは、家族・親戚間での助け合いはとても大切にされていますが、血縁関係にない人々同士が助け合ったり、みんなで協力して問題を解決しようとする姿勢はそれほど強くありません。むしろ、貧しさから抜け出そうと、「家族や親戚のために、他を蹴落としてでも自分はチャンスを掴まなければ」と努力する人が多いといえるかもしれません。

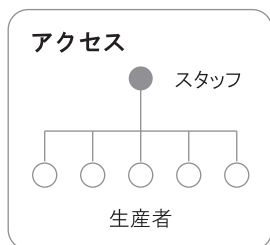
そんな社会の中で、同じ苦勞を抱える人々同士が、力をあわせて共通の課題に立ち向かっていけるようにしていきたい、というのがアクセスの考えです。たとえば奨学金プログラムでは、子どもたちに教育の機会を提供すると同時に、保護者を組織しています。保護者会では、子どもたちの多くがお腹をすかせたまま授業を受けているという現状をなんとかしようと、保護者が交代で給食を調理し、届けるという活動を始めました。個人では解決できない問題について、共通の課題を抱えた保護者が自らを組織し、協力し合い、問題解決のための取り組みを皆で実施し、継続できるようにしていく。アクセスは、そうした活動に必要な資金を調達し、その事業の運営・組織の運営にあたって必要なさまざまなスキルを保護者が身につけられるよう、サポートをしています。アクセスでは、こうした集団に対するエンパワメントに力を入れています。

もう1つ、アクセスがめざしているのは、貧しい人々に地域ぐるみで問題を解決しようとする力を身につけてもらおう、ということです。教育や仕事、青少年育成など、特定分野ごとの事業運営と並行して、地域全体が抱える課題(大土地所有制や、立ち退きの問題など)に取り組める組織をつくることをめざし、活動を行っています。

フェアトレードプログラムの場合

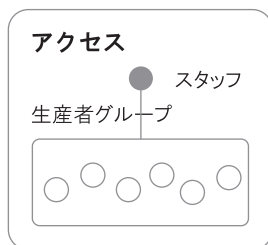
ベレーズ地区で、地域に豊富にある素材(ココナツ殻など)を活用した商品の生産・販売を行い、そこから得られる収入で生産者の生活を向上させていくという取り組みです。

2000年スタート当初



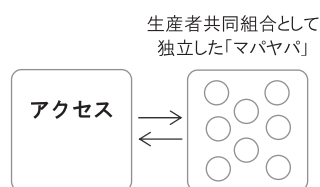
働きたいと願う女性を対象に、技術指導を行い、商品生産を開始。日比共同でデザインを開発し、主に日本で販売。一人ひとりの生産者が、アクセスのスタッフから直接、指導や注文を受けていました。

2012年度



生産者グループ「マバヤパ」を組織して、役員選出、規約づくり、定例会議の開催が実現。以前はアクセス・スタッフが行っていた発注の配分、品質管理、出荷準備などもメンバーで分担して行うようになっていきます。アクセス・スタッフは、生産者団体が自立できるよう、サポートを行っています。

将来的には…

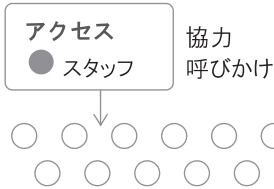


生産者一人ひとりが対等な立場で経営・運営にたずさわって、民主的にものごとを決定する共同組合として、マバヤパが自立することを目指しています。アクセスは、マバヤパの取引先であり、相談役として関係を継続します。

給食プログラムの場合

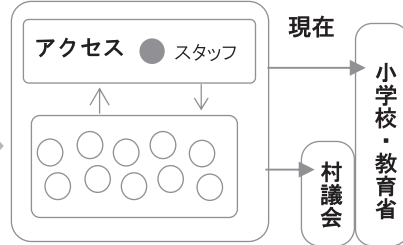
ピナツボ地区の子どもたちのための給食プログラムでは、アクセスが資金を確保し、保護者が買出し、調理、配膳、後片付けを担っています。

2010年スタート



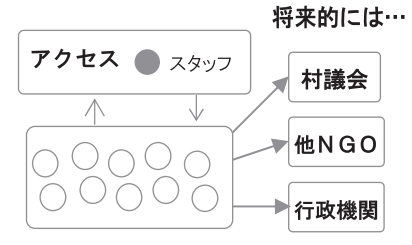
保護者に呼びかけ、「保護者会」を組織

近畿ろうきんからの支援で給食プログラムを実施するにあたり、幼稚園・小学校の保護者を「保護者会」として組織。保護者が協力して、給食を実施する体制を作りました。



保護者会／定期ミーティング

給食準備ミーティングや、調理ボランティアは、保護者間の親睦を深める場に。「小学校卒業まで学べる地域をつくりたい」という保護者の想いが届き、教育省が2014年に校舎を増設。2014年度は6年生まで開講され、火山被災後、初の卒業生11人が誕生しました！



保護者会／定期ミーティング

将来的には…地域の未来は、住民自身が考え、決めていきます。アクセスは話し合いをサポートし、意見がまとまるよう支援します。人々が村議会やNGO、行政などと協力して課題を解決していけるようになることをめざします。

貧しい生活の中で、十分な教育を受けることができずにきた人々にとって、事業を運営したり、組織として話し合いでものごとを決めたり問題を解決したりするのは簡単なことではありません。そんな中、アクセスでは保護者会や生産者団体といった、プログラム参加者によるグループを組織し、日々の活動を通じて、メンバーが事業運営に関するさまざまなスキルを身につけられるようにしています。

アクセス・スタッフの仕事は、そうした事業運営をまずは自らやることで手本を示し、その後、徐々にその仕事を参加者に引き継いでいくこと、そして組織運営に関するアドバイスをしたり、相談にのったりすることです。また、子どもや女性の権利についてのセミナーを行ったり、貧困が生まれる構造についての学習会を行うなどして、住民の意識の向上にも取り組んでいます。

コミュニティ・エンパワメント～地域の問題にとりくむ組織づくり

現在、アクセスが行っているすべてのプログラムのもとで、住民のグループを組織すること、そしてそれぞれのプログラムを組織のメンバー自身が運営できるようになることをめざしています。いずれは、それぞれの組織の代表者によって「住民協議会」がつけられ、地域の多くの人たちが共通して抱えている問題の解決にとりくめるような存在になっていけば、と考えています。

住民協議会の建設と役割

将来的には…

アクセス
アクセスの役割は、住民協議会が取り組む課題について、活動の参考になる情報・人脈などあらゆるリソースを提供したり、活動の相談にのったりすることです。

【ペレーズ地区住民協議会】

マパヤパ生産者共同組合

青年会

保護者会

奨学生会

マイクロファイナンス・グループ

土地問題

環境問題

女性の権利

子どもの権利

農村地区の貧困の原因の1つは、大土地所有制ですが、一部の農民が不満を口にしたいくらいでは大土地所有制をなくすことはできません。でも、土地なし農民が協力し、一斉に声を挙げれば、状況を改善できる可能性はあります。

子どもの権利についても、尊重されるべき権利について知る人を増やし、多くの子どもが団結して権利を主張すれば、権利侵害は減っていきます。

「住民協議会」は、地域が抱える問題について提起し、どうすれば問題が解決できるのかを考え、議論し、行動にうつしていくための場です。

役員・スタッフ・ボランティア

アクセス・フィリピン

フィリピン理事会

理事長	カルメンシータ・カラグタグ（メンチ）
理事	ロサリナ・クラマー（リサ）
理事	アイダ・カルロス
理事	石川 雅国
理事	カルメリータ・モランテ

フィリピン運営委員会

ロサリナ・クラマー（リサ）
石川雅国



（左から）
アイリーン・ブラヤグ 幼稚園教員
ジェネット・アルパロ アシスタント・コーディネーター
ロランド・カンデラリオ 事務所管理人

フィリピン事務局

（左から） 中野 佳織 マリエル・ヴィリヤヌエヴァ（マーズ） 石川 雅国 クリスター・ジョン・ララ（ジェリック） ロサリナ・クラマー（リサ） ライアン・サルバドル	ボランティア 教育啓発担当 総務経理/ピナツボ担当 都市貧困地区担当 事務局長 マイクロファイナンス担当
---	---



ピナツボ地区

都市貧困地区

バヤタス地区（写真左より）
テレサ・オングダ
教員補助
アリシア・グティエレス（アリス）
幼稚園教員
マリテス・ペリノ（テス）
幼稚園管理人



トンド地区
ジェイミー・コレテサ
青年会担当

ペレーズ地区



（写真左より） リザ・メルガド アビケル・エスカミリヤス（アビー） 茶園 幹太 アドニス・パハリヨ ジョアン・リャニータ	奨学金担当 フェアトレード担当 インターン マイクロファイナンス担当 奨学金担当
---	--

the Philippines

（2015年6月末時点）

アクセス日本

日本理事会

理事長	新開 純也	元株式会社タカラブネ社長	理事	千田 智之	株式会社ソフトパス代表取締役
常務理事	森脇 祐一	事務局員	理事	田中 雅規	株式会社高島屋社員
理事	江口 慶明	関西大学生協同組合専務理事	理事	塚本 誠一	弁護士
理事	河西 実	NPO 法人フェア・プラス事務局長	理事	中本 式子	元生活クラブ京都エルコープ理事長
理事	片岡 卓三	医師	理事	野田 沙良	事務局長
理事	菊池 光造	京都大学名誉教授	理事	廣瀬 昌代	同志社大学大学院生
理事	崎山 政毅	立命館大学教授	監事	渡邊 功	公認会計士
理事	杉山 遼	特別支援学校 教員			

日本事務局

(左から)

インターン	高井 進二
インターン	川畑 知実
事務局員	森脇 祐一
事務局長	野田 沙良
事務局員	高橋 彩
事務局員	島田 純子



事業部・チーム・支部・委員会 ボランティア

【フェアトレード事業部(FT 事業部)】

廣瀬昌代、田中雅規、十一智教、田中優美子、久保七彩、瀧口知佳、橋詰佳穂、浅賀詩織

【開発教育チーム(GET)】

白柳飛翔、三戸部香帆、南波華奈、新谷田奏子、栗津涼平、森井英樹、能任花林

【アペロクルス・ペレーズ支援チーム(FACT)】

長岡文音、久本雅人、斉藤岳、上本英文、寺川千晶、森山結愛、桂山詩帆、神山友紀、此和愛佳、生田泰崇

【スモーキーマウンテン支援チーム(FIT)】

木村諒子、吉川舞、杉山遼、谷和之、野村光生、松岡春香、富田沙樹、岸田千加子、中野美咲、水城美冠、野越玲奈、氏田楓、赤井美賀子、島崎史織、三戸部香帆、岡崎沙也香、駒井真帆

【ピナツボ支援チーム(PEACE)】

浅堀きらり、氏田楓、小笹誠一、金川小夏、河内山芽衣、東口壽男、早田咲希、南裕子

【東京支部】

佐藤真彦、物延玄朗、平井理代、石塚葉月、小清水麻美、阿部仁美、溝辺慧斗、木村諒子、林智朗、川井友紀子、森継吏恵

【広報委員会】

高島直美、吉田三奈美、高橋諭吉、森岡陽菜

【カフェイベント実行委員会】

今井夏帆、前田博、岡室佑佳、武藤望未、高井進二、三嵐さとし

【翻訳ボランティアチーム】

平井孝子、榎本桂子、大原理依子、岡崎眞也、木村龍一、服部舜也、掃部洋平

(2015 年 6 月末時点)

Japan

会員・寄付者（2014年度）

会員サポーター数 全 695 名

寄付協力(現金) 個人 68 名、グループ・学校・法人等 18 件

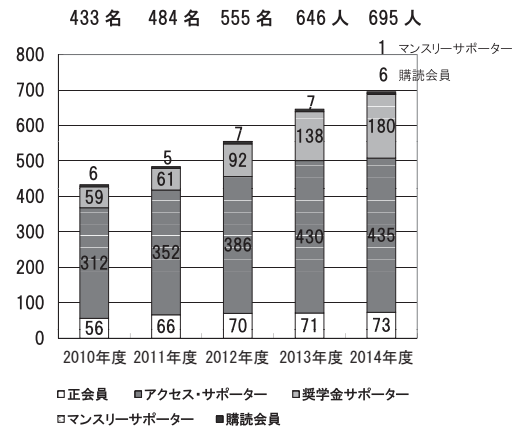
書き損じハガキ 個人・グループ・法人等 35 件／2,201 枚

ココロ便 個人・法人等 73 件／191,994 円分
(本・CD・DVD・ゲームのご寄付)

その他物資 個人・学校・法人等 27 件
(文房具、衣類、未使用のテレホンカード・金券・切手など)

アクセスの活動は、会員・サポーター・支援者の皆さまお一人お一人のご理解とご協力のもとに成り立っております。2014 年度にいただいたご支援・ご協力に、あらためてお礼申し上げます。

※各年度末時点の会員数



ご支援いただいた助成団体（2013年度以降）

公益信託 今井記念海外協力基金「国際協力NGO助成」

貧困層の子どもたちを対象とした奨学生プログラムの奨学生会・保護者のエンパワメントを通じた、健康な家族生活と子どもにやさしいコミュニティの建設事業（2013 年度、2015 年度）

パナソニック株式会社／特定非営利活動法人サービスグラント

Panasonic NPO サポート プロボノプログラム
事業計画立案サービスグラント プロジェクト型助成（2013 年度）

特定非営利活動法人アークス仏教国際協力ネットワーク

NGO組織強化支援事業(2013 年度、2014 年度、2015 年度)

一般財団法人まちづくり地球市民財団

貧農村地区ペレーズにおけるフェアトレードプログラム強化事業
(2013 年～2014 年)

公益財団法人公益推進協会「第三回夢屋基金」

ゴミ捨て場周辺コミュニティにおける教育支援事業(2013 年～2014 年)

公益財団法人庭野平和財団「活動助成」

創立 25 周年記念事業「国際協力 NGO とエンパワメントの可能性を問い返す」
(2013 年～2014 年)

情報産業労働組合連合「情報労連 愛の基金」2013 年度

公益財団法人日本フィランソपी協会

「三井住友銀行ボランティア募金」

貧農村におけるマイクロクレジットと女性たちの経営力向上事業(2013 年～2014 年)

関西 NGO 協議会・真如苑共催

「関西地域NGO助成プログラム」

国際協力きつかけづくりカフェイベント(2013 年～2014 年)

公益財団法人大阪コミュニティ財団「がっこう基金」

ピナツボ火山土石流被災地での就学前教育・社会教育事業(2014 年度)

日本化学産業労働組合連合会「スマイル by JEC」

ゴミ捨て場周辺コミュニティにおける教育支援事業

(2014 年度、2015 年度)

日本労働組合総連合会(連合)「愛のキャンパ」

ゴミ捨て場周辺コミュニティにおける教育支援事業(2014 年度)



がっこう基金からの助成金と、皆さまからのご寄付により建設した、ピナツボ地区の幼稚園・社会保健センター



夢屋基金、日本化学産業労働組合連合会、日本労働組合連合会から助成いただいたバヤタス地区の幼稚園



今井記念海外協力基金から助成いただいた、子どもの権利セミナーの様子

ご協力いただいた企業・学校・団体等（2014年度）

京都市立修学院中学校	フィリピンの子どもたちの小学校就学に対する支援(2002 年～)
近畿労働金庫	フィリピンの子どもたちに教育と給食を提供する「心のそしな」プロジェクト(2010 年～)
ブックオフコーポレーション株式会社	中古品の寄付によりフィリピンを支援する「ココロ便」プロジェクト(2013 年～)
株式会社ドロキア・オラシタ	フィリピンの幼稚園で、給食と文房具を提供(2014 年～)

株式会社テーブルクロス、ランチフォースファウンデーション、京都市南浜児童館、鴨東教会、立命館国際協力サール JOLLYBE、社会福祉法人京都福祉サービス協会、毎日新聞愛の手チャリティ事務局、医療法人桜花会醍醐病院、桜井市国際交流協会、法蔵寺、京都市立伏見工業高等学校、高松市立林小学校、木津川市立木津第二中学校、清風学園インターアクトクラブ、金光八尾中学校高等学校インターアクトクラブ、浪速中学高等学校インターアクトクラブ、相愛中学高等学校インターアクトクラブ、大阪桐蔭中学高等学校インターアクトクラブ、大阪国際大和田中学高等学校インターアクトクラブ、八尾ロータリークラブ、四天王寺高等学校中学校インターアクトクラブ、豊中市立第八中学校、大阪市立平尾小学校、Vegans Café and Restaurant、多目的カフェかぜのね、バザールカフェ、京の癒し町家 cafe 満月の花、明和工業株式会社、Zaan Japanese Tea House、オムロン株式会社、大和製罐株式会社真岡工場、中野章吾商店、薬院オーガニック株式会社、ゲストハウスたむら、有限会社ウエストコースト、喫茶うずら、スリースター京都、日産化学工業労働組合富山支部青年の会、浄土真宗本願寺派北豊教区門司組、生活協同組合コープ自然派京都、生活協同組合コープ自然派ピュア大阪、未来洞、三彩商事株式会社、神戸ゾントクラブ、国際ソロブチミスト稲城、立命館中学校・高等学校(順不同)

受賞歴

公益財団法人かめのり財団「第 5 回かめのり賞」

「日本とアジア・オセアニアの若い世代を中心とした相互理解・相互交流の促進や人材育成に草の根で貢献」(2011 年)

社会福祉法人京都市社会福祉協議会表彰

「福祉のまちづくりに貢献」(2013 年)

特定非営利活動法人パートナーシップ・サポートセンター 第 8 回パートナーシップ大賞グランプリ

「NPO と企業の優れたパートナーシップ事例を選出し表彰する」(2011 年)



加盟団体・ネットワーク等（2014年度）

特定非営利活動法人関西 NGO 協議会(正会員／副代表理事)、特定非営利活動法人国際協力 NGO センター(正会員)

日比 NGO ネットワーク(正会員)、京都府国際交流団体情報ネットワーク「kokoka 国際交流団体ねっと」(会員)

京都市市民活動総合センター(運営委員)

ブック!

預金を通じて、子どもたちを応援! 「心のそしな」プロジェクト

6 年目に
入りました!

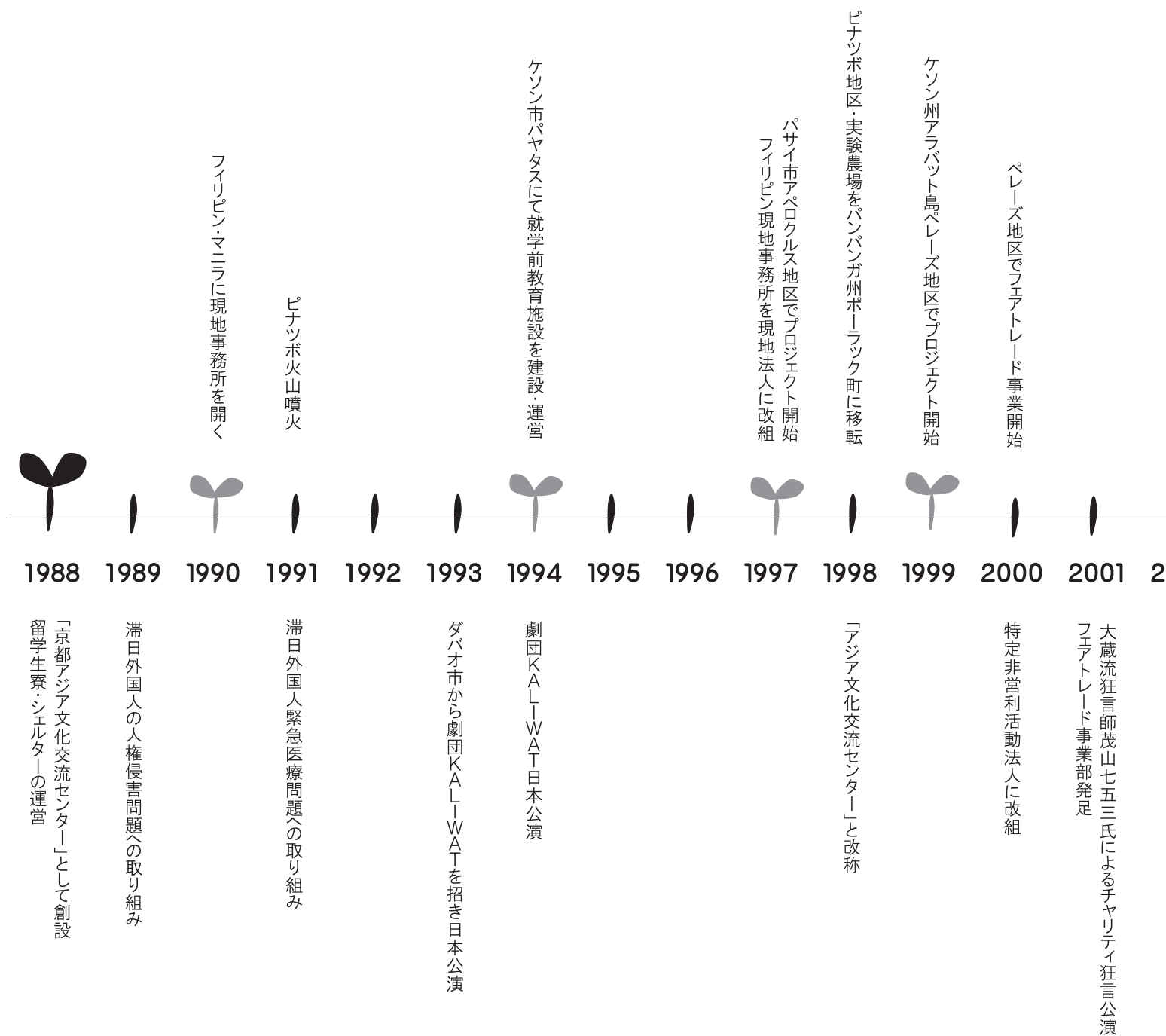
アクセスでは近畿ろうきんと連携して、ピナツポ地区とベレーズ地区の子どもたちに教育と給食を提供する「心のそしな」プロジェクトを 2010 年春にスタートしました。これは、近畿ろうきんに定期預金などをしてくださった方への粗品を一部なくし、粗品分の費用を子どもたちへの支援にあてるというものです。

預金をするだけで子どもたちの学びを応援できるというこのプロジェクトに、たくさんの方が賛同してくださっています。この取り組みは、企業と NPO の協働事業を表彰する「パートナーシップ大賞」の 2011 年度グランプリにも選ばれ、新聞・ラジオ・雑誌等でも紹介されました。「国際支援に関心はあるけど、何からはじめたらいいかわからない」という方、預金からはじめてみませんか?

【問い合わせ】近畿労働金庫 本店営業部 TEL 06-6449-1211

アクセスのあゆみ

1988 - 2015



十年後の未来を描く年に

ピナツポ地区に幼稚園・社会教育センター建設
立ち退きに伴い、スモークーマウンテン地区事業終了

設立25周年

ケソン市バヤタスにて、就学前教育施設の運営を再開

ペレーズ地区でマイクロファイナンス事業開始
ピナツポ地区でカラバオ(水牛)供給プログラム開始

ペレーズ地区で奨学金プログラム開始
ピナツポ地区で小学校校舎増築

ピナツポ地区で小学校校舎・井戸を建設

ピナツポ地区で就学前教育施設の運営開始

スモークーマウンテン地区で青年会設立

マニラ市トンド地区スモークーマウンテンで事業開始

ペレーズ青年会設立

十年後の未来を描く年に

社会人翻訳チーム、カフェイベント実行委員会発足

設立25周年

ACTチームとFACEチームが合併し、FACTチームに

「パートナーシップ大賞」グランプリ受賞

(特定非営利活動法人パートナーシップ・サポートセンター)
第五回かめのり賞 受賞(公益財団法人かめのり財団)

PEACE(ピナツポ支援チーム)発足

LOLA(ロラ支援チーム)発足

FIIT(スモークーマウンテン支援チーム)発足

「アクセス・共生社会をめざす地球市民の会」と改称

ペレーズ支援チーム発足

ACT(アペロクルス支援チーム)発足

BYPs(ペレーズ家庭養豚奨学プログラム支援チーム)発足

GEET(開発教育チーム)発足

9 8 8 - 2 0 1 5



市民のネットワークが貧困のない社会を創る
特定非営利活動法人 アクセスー共生社会をめざす地球市民の会
612-0029 京都市伏見区深草西浦町4-78 村井第一ビル2F 7号室
TEL/FAX 075-643-7232 E-MAIL acce@sannet.ne.jp
<http://www.page.sannet.ne.jp/acce/>

アクセス NGO

検索